

令和6年度事業報告

令和6年度の事業は、医薬品業界を取り巻く環境の急激な変化、医療DXの推進、自然災害や新興感染症対策の体制整備、社会からの要請等に対して、薬剤師、薬局としての立場から様々な調査結果を基に意見や主張を発信した。

選定療養制度導入後に実施した「長期収載品の選定療養に関する薬局での対応状況調査」は、日本薬剤師会を介して厚生労働省に提供され、中央社会保険医療協議会で議論の資料として活用された結果、薬剤師業務が評価され調剤報酬プラス改定に繋がった。また、薬局におけるカスタマーハラスメントの実態をアンケート調査し、薬局における問題事例等の現状を社会に訴えた。

大きな社会問題となっている若年層による一般用医薬品の乱用への対応として、令和6年10月1日に警視庁、日本薬剤師会及びくすりの適正使用協議会との四者により「児童・生徒の薬物乱用防止に関する覚書」を取り交わし活動を開始した。これに基づき、警察官に対する少年相談実務研修、被害青少年サポーター研修、私立高等学校の生徒への講話及び警察ボランティアに対する研修を警視庁と連携して対応した。

協力団体である東京都病院薬剤師会とは、従来から様々な協力体制にあったが、事業内容をより具体的に、また多様な新しい流れにも対応していけるよう、令和6年11月に事業連携に関する覚書を取り交わした。薬剤師として共通の目的である資質向上、後進育成、災害時対応をはじめ、両会が協力して実施すべきと認識している事項についてより堅固な協力体制をもって遂行していく基盤を構築した。

生涯研修認定制度においては、会員のみならず全国の薬剤師に学びの機会が提供できるよう、より充実した生涯学修プログラムを策定し、研修会の実施にあたっては、受講者の利便性にも鑑み、多くをWEB併用方式を用いて開催した。また、t-MYLSのコンテンツの充実も図り、薬剤師の生涯研鑽、職能向上のための環境整備を推進した。

平成30年度に策定された「災害時薬剤師班活動ガイドライン」について、改定に向けた素案作成を東京都から受託し、令和7年3月に「災害時薬事活動ガイドライン（第2版）」発行に協力した。また令和6年4月には、当会より2名の「東京都災害薬事コーディネーター」が任命されたことを受け、「令和6年度大規模地震時医療活動訓練」に参加し、連携体制の構築に取り組んだ。

医療DXについては、特に電子処方箋やサイバーセキュリティへの対応が急がれている中、「サイバーインシデント発生時のBCP薬局向け雛形」を策定し、会員に提供した。

組織強化における会員増強対策として、特に20歳代の入会者が著しく少ないことを受け、20歳代を対象としたお試し入会キャンペーンを立案し、令和7年度実施に向け準備を行った。これらは、会員の皆様のご協力、団結による事業遂行の成果である。

令和6年度も、東京都薬剤師会は都民や地域医療に貢献している会員の皆様の一助となるべく以下の活動テーマに沿って、記載の事項に対応した。

【活動テーマ】

「薬局DXの推進とかかりつけ薬剤師の多職種連携で地域のハーモニーを奏しよう！」

【重点項目】

- 都薬生涯学修プログラムの拡充及び都薬生涯研修認定制度の利用促進と広報
- 災害時医療救護に係る「災害薬事コーディネーター」の養成と連絡体制の充実
- 次世代薬剤師育成の実施
- 一般用医薬品を中心とした乱用の防止啓発資材と薬の適正使用の教育資材の開発
- 地域包括ケア（切れ目ない薬物療法の提供）に向けた薬・薬連携の推進
- 医療DX化及びサイバーセキュリティ対策への対応
- 「地域連携薬局」、「専門医療機関連携薬局」の認定取得に向けた支援

第2 事業活動の概要

1. 薬剤師行動規範並びに薬事・医療関連法規の趣旨の周知と遵守の徹底

一般用医薬品等の適正使用の推進及び供給体制整備の周知・徹底を図るため、薬機法改正の動向に対応した資料を作成し配布すると共に各種講習会(薬事衛生自治指導員全体講習会、基準薬局中央研修会、地区薬剤師研修会、管理薬剤師研修会、薬局薬剤師のためのコンプライアンス研修会)など、機会を捉え情報発信に努めた。また同様に薬剤師としての倫理及び薬事・医療関連法規の趣旨の周知を図った。

2. 薬剤師職能及び薬局機能対策

2-1 薬剤師資質向上対策(薬学振興対策)

(1)「患者のための薬局ビジョン」を踏まえた、かかりつけ薬剤師育成事業の実施

患者や地域住民の医薬品の適正使用のみならず、公衆衛生の向上及び健康な生活の確保のための情報提供や相談窓口となるなど「かかりつけ薬局」及び「かかりつけ薬剤師」の定着を図ることを目的に、平成12年度以来毎年「かかりつけ薬剤師研修会(平成28年度までの研修会名称は「かかりつけ薬局研修会」)を開催している。

【かかりつけ薬剤師研修会】(旧 かかりつけ薬局研修会)

令和6年度当会の各種研修会は、「薬局DXの推進とかかりつけ薬剤師の多職種連携で地域のハーモニーを奏しよう!」を活動テーマとし、かかりつけ薬剤師研修会を下記のとおり開催した。

開催日時：令和6年11月17日(日) 12:30～16:00

開催方法：集合・配信併用開催(会場：野村コンファレンスプラザ日本橋 大ホール)

受講者：会場102名(内、会員87名)、配信704名(内、会員565名)

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 精神疾患を持つ高齢者との関わり方～認知症以外の精神疾患について知ろう～
医療法人社団創福会 理事長／ふくろうクリニック等々力 医師 山口 潔
3. 地域における精神看護
訪問看護ステーションふくろう等々力 管理者／看護師 上村 豊子
4. 高齢者てんかん～薬物治療を中心に～
医療法人社団創福会 ふくろうクリニック等々力 薬剤師 南郷 大輔
5. 精神疾患患者の在宅医療における薬剤師の役割
東京都薬剤師会 生涯学習委員会委員
／衣香堂薬局 中島 謙司マクシミリアン
6. パネルディスカッション
進行：生涯学習委員会委員 小縣 悦子、
同 高田 めぐみ
7. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登

(2) 禁煙支援薬剤師認定制度の推進

平成23年10月より、eラーニングを活用した都薬独自の禁煙支援薬剤師認定制度の運用を開始し、令和7年3月末時点で566名の受講申込があった。また、令和6年8月に第24回、令和7年2月に第25回認定審査会を開催した。これまでに禁煙支援薬剤師として計205名を認定した。

(3) 都薬生涯学修プログラムを構成するeラーニングシステム (t-MYLS)のコンテンツ並びに研修会の充実

東京都薬剤師会生涯学修プログラムのアウトカムである「信頼される薬剤師、実践的な薬物療法に貢献できる薬剤師」を養成するために令和6年度も基礎から先進的な治療にわたる系統的な知識を修得する機会として研修会等の開催とeラーニングコンテンツの充実を図った。

令和6年度は本会が開催する主要な研修会等において、特に広範かつ継続的な医療の提供が必要と認められる5疾病に対する研修会だけでなく、薬局業務で今まで以上に求められているセルフケア・セルフメディケーション、災害時の薬剤師の活動や市販薬の過剰摂取（オーバードーズ）対策への知識を修得するための研修会も開催した。令和6年7月7日に開催した基準薬局中央研修会では市販薬のオーバードーズをテーマに、薬局薬剤師としてどのような支援が可能か講演をした後、パネルディスカッションを行った。令和6年8月25日に開催した薬学講習会ではパーキンソン病について知識を深めるとともに、災害現場での処方支援および調剤時の医療安全をいかに確保すべきかについて、薬剤師の具体的な対応を修得するための研修を実施した。令和6年11月17日に開催したかかりつけ薬剤師研修会では高齢者の精神疾患に焦点をあて、薬局内だけでなく、在宅医療の現場でも活躍できるように講演を行った。令和7年1月26日に開催した薬局業務研修会では地域に根差した薬局として患者、地域住民から選択される薬局になるために必要な知識を修得するための研修を実施し、パネルディスカッションを行った。

また、薬剤師の生涯研鑽に資するため、令和5年8月4日から運用を開始した、学習支援システム「t-MYLS (t-マイルス)」(Tokyo pharmaceutical association - MY Lifelong learning System) については、昨年作成した、医療計画における5疾病と呼吸器疾患についてのシラバスのコンテンツを順次公開するとともに、漢方療法、在宅医療や災害、感染症における薬局薬剤師の対応を習得するための研修等のコンテンツも公開し、疾患・治療だけでなく幅広い領域においても生涯研鑽に励めるように対応した。令和6年度は、18本のコンテンツを作成・公開し、コンテンツの合計は、42本となった。今後も疾患数を増やしてシラバスを作成し、更なるコンテンツの拡充を行い、生涯学修プログラムの推進を行っていく。

なお、都薬ホームページでは、禁煙支援薬剤師認定制度（2-1（2）「禁煙支援薬剤師認定制度」の項を参照）に続く生涯学習プログラムとして、平成27年から「認知症サポート薬剤師eラーニング講座」を公開している。また、eラーニング講座を受講した方を対象として、さらに学びを深め、認知症サポーターとしての知識を習得することを目標としたスクーリングをこれまでに6回実施している。

令和6年度も下記のとおりスクーリングを開催し、一般・会員合わせ26名に修了証を発行した。

【令和6年度 認知症サポート薬剤師 面接授業(eラーニング講座スクーリング)】

開催日時：令和6年6月16日（日）12:30～16:30

開催場所：慶應義塾大学薬学部芝共立キャンパス 2号館4階460大講堂

受講者：26名（会員15名、会員外11名）

内容：

総合司会/東京都薬剤師会 理事 浅井 和範

東京都薬剤師会 副会長 高松 登

1. 開会挨拶

2. 第1部：講義・グループ討議Ⅰ・全体発表

「認知症サポート薬剤師とは」

東京都薬剤師会 生涯学習委員会 副委員長 高島 啓輔

3. 第2部：グループ討議Ⅰ・全体発表

【テーマ】「認知症（疑いのある）ご本人や家族、他職種と対応する上で印象に残っていること」

4. 第3部：講演

「認知症が止まった理由

MCI（軽度認知障害）と診断されて10年が経って」

元週刊朝日編集委員/フリーライター 山本 朋史

「認知症を知るより、『認知症の人なんていない』ことを知ろう！」

臨床心理士 浅見 大紀

5. 第4部：グループ討議Ⅱ・全体発表

【テーマ】「認知症（疑いのある）ご本人や家族、他職種に対して、薬剤師として、もってできること。してみたいこと。」

6. 第5部：質疑応答

進行：生涯学習委員会 副委員長 高島 啓輔

7. 第6部：決意表明

「明日から取り組むこと」（グループ内発表）

8. 修了証授与（修了証授与人数：26名）・閉会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 高松 登

（4）都薬生涯研修認定制度及び日本薬剤師会生涯学習支援システム(JPALS)の利用推進

令和4年2月18日に、(公社)薬剤師認定制度認証機構の認証を取得した、本会生涯研修認定制度の利用促進に向けては、本会が発行する都薬雑誌において、引き続き本会の生涯学習プログラムの概要を含め、同制度を活用することのメリット等について広く周知を行った。また、学術大会や研修会等で、本会に対して後援や共催の依頼がなされたものについては、当該研修認定制度について情報提供を行い、本会研修認定単位の活用を促した。

その結果、令和6年度には、本会が認定し研修単位を発行した研修会等が374回開催（内訳1単位：287回、2単位：70回、3単位：15回、4単位：2回）され、合計18,105枚の研修単位（内訳1単位：10,450枚、2単位：6,924枚、3単位：647枚、4単位：84枚）を配付する等、認定薬剤師の養成に貢献した。また、令和6年度に本会が認定した認定薬剤師は延べ403名（内訳 新規：137名、更新：266名）であった。

平成24年4月より、日本薬剤師会生涯学習支援システム(JPALS)がスタートした。平成26年5月には、JPALSのポートフォリオ(実践記録)の記載をより容易とするために「実践記録シート」を作成して都薬ホームページ上に掲載し、地区薬剤師会にもその活用を促している。本会で開催する主な講習会においては、プログラム等にJPALSコードを記載し、また、「実践記録シート」を配布するなど、JPALS利用者の利便を図るよう努めた。

(5) 薬学講習会等各種講習会の開催

① 臨床薬学講座の開催

令和6年度の臨床薬学講座は、少人数による実践的な実習の研修会を2回開催した。

【第1回 臨床薬学講座】

開催日時：令和6年7月21日(日) 13:00～16:40

開催場所：東京慈恵会医科大学 2号館1階講堂

受講者：30名(会員30名)

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 小野 稔
2. <講 義>
 - 1) JRC 蘇生ガイドライン 2020 に基づく現場での救急処置
東京慈恵会医科大学 救急医学講座 主任教授 武田 聡
3. <実 習>
 - 1) 心肺蘇生法・AED 使用法
講師 山田 京志、助手 衛藤 由佳、チューター 中村 博昭
 - 2) ファーストエイド(窒息・止血・アナフィラキシー等)
講師 鈴木 亮、助手 挟間 しのぶ、チューター 加藤 一郎
 - 3) 災害トリアージと薬物中毒
講師 中谷 宣章、助手 古沢 身佳子、チューター 藪下 健太郎
4. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 松本 雄介

【第2回 臨床薬学講座】

開催日時：令和6年10月20日(日) 13:00～17:20

開催場所：東京都薬剤師会館 3階

受講者：20名(会員19名)

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 小野 稔
2. <講 義>
 - 1) 糖尿病の継続ケアを考える
杏林大学医学部附属病院 竹脇 史絵
 - 2) 糖尿病患者への服薬指導 ―患者支援をどのように行うのが良いか―
東京薬科大学 特命講師 近藤 幸男
3. <実 習>
 - 1) 各種注入器・自己血糖測定器の使い方(CSII含む)
ファシリテーター：東京都薬剤師会役員・委員
 - 2) 糖尿病患者のトレーシングレポートの書き方とそのポイント
東京薬科大学 特命講師 近藤 幸男
4. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 松本 雄介

② 薬学講習会の開催

令和6年度は、パーキンソン病をテーマに薬学講習会を開催した。また、薬局における医療安全管理研修では、災害時における薬剤師の支援活動をテーマに開催し、薬剤師の安全対策意識および実務対応力の向上を図った。会場・Web配信をあわせて多数の会員の参加を得た。

【薬学講習会】

開催日時：令和6年8月25日(日) 13:00～16:25

開催場所：星薬科大学 メインホール および Web 配信

受講者：1,426名（会場234名、Web1,192名）うち、会員1,169名

内 容：

1. 挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 最近の薬務行政について 東京都保健医療局健康安全部 薬務課長 中島 真弓
3. パーキンソン病における病態・診断から薬物治療について 東京女子医科大学 脳神経内科 教授 飯嶋 睦
4. 災害時のリスク回避に配慮した薬剤師の支援活動について 東京薬科大学 臨床薬剤学教室 准教授 平田 尚人

③ 令和6年度 基準薬局中央研修会の開催

今年度も、集合研修及びオンライン研修により、「オーバードーズ」をテーマに基準薬局中央研修会を下記のとおり開催した。

【令和6年度 基準薬局中央研修会】

開催日時：令和6年7月7日(日) 12:30～16:00

開催場所：星薬科大学 メインホール

開催方法：集合研修及びオンライン研修

受講者：951名

- ・集合研修 144名(内、会員外6名)
- ・オンライン研修 807名(内、会員外31名)

内 容：

1. 挨拶 東京都薬剤師会 副会長 宮川 昌和
2. 市販薬のオーバードーズについて地域の薬局に期待すること 東京都保健医療局健康安全部 薬事監視担当課長 渡辺 大介
3. 市販薬のオーバードーズについて：その現状と課題 湘南医療大学 薬学部 薬理学研究室 教授 船田 正彦
4. 帝京平成大学における「薬育」の取り組み 帝京平成大学 薬学部 薬学科 社会薬学教育研究センター 実践地域連携ユニット 助手 原田 美那
5. オーバードーズに関する相談と対応 東京都立多摩総合精神保健福祉センター 広報援助課 相談担当 山田 俊隆
6. 子ども食堂を通して地域の薬局が子どもたちにできること 株式会社水戸薬局 取締役部長/kuuma 代表 今西 利香

7. パネルディスカッション

～オーバードーズに向けて、私たち薬局薬剤師に何が出来るか～

座長：東京都薬剤師会 常務理事 犬伏 洋夫

パネリスト：湘南医療大学 薬学部 薬理学研究室 教授 船田 正彦
帝京平成大学 薬学部 薬学科 社会薬学教育研究センター
実践地域連携ユニット 助手 原田 美那
東京都立多摩総合精神保健福祉センター 広報援助課
相談担当 山田 俊隆
株式会社水戸薬局 取締役部長/kuuma 代表 今西 利香
文部科学大臣政務官 本田 あきこ
東京都薬剤師会 薬局業務委員会 委員 上原 健嗣

④ 東京都薬剤師認知症対応力向上研修の開催

認知症の早期発見や医療における認知症への対応力を高め、地域において薬局・薬剤師が認知症の人への支援体制構築の担い手となることを目的として、東京都の委託により開催している。今年度も昨年度に引き続きオンライン開催とし、下記のとおり配信受講形式の研修会を2回実施した。

【令和6年度 東京都薬剤師認知症対応力向上研修 第1回】

開催日時：令和6年10月26日(土) 15:00～18:40

開催方法：録画配信 (Zoom ウェビナー)

受講者：307名

内容：

1. 開会・主催者挨拶

東京都福祉局高齢者施策推進部 認知症施策推進担当課長 小澤 耕平
東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

2. 認知症への基本的な理解

東京都薬剤師会 生涯学習委員会 委員 佐藤 仁

3. 薬局・薬剤師と地域包括支援センターの連携について

社会福祉法人三鷹市社会福祉事業団 三鷹市大沢地域包括支援センター
センター長 香川 卓見

4. 認知症のかたに対して薬剤師に求められること～薬学的管理と関係機関との連携～

東京都健康長寿医療センター 薬剤科係長 谷古宇 美佳

5. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 高松 登

6. 事務連絡

東京都薬剤師会 理事 浅井 和範

【令和6年度 東京都薬剤師認知症対応力向上研修 第2回】

開催日時：令和6年11月10日(日) 9:00～12:40

開催方法：録画配信 (Zoom ウェビナー)

受講者：399名

内容：

1. 開会・主催者挨拶

東京都福祉局高齢者施策推進部 認知症施策推進担当課長 小澤 耕平
東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

2. 認知症への基本的な理解

東京都薬剤師会 生涯学習委員会 委員 佐藤 仁

3. 薬局・薬剤師と地域包括支援センターの連携について

社会福祉法人三鷹市社会福祉事業団 三鷹市大沢地域包括支援センター
センター長 香川 卓見

4. 認知症のかたに対して薬剤師に求められること～薬学的管理と関係機関との連携～

東京都健康長寿医療センター 薬剤科係長 谷古宇 美佳

5. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 高松 登

6. 事務連絡

東京都薬剤師会 理事 浅井 和範

(6) 認定実務実習指導薬剤師の養成・更新及び改訂内容を踏まえた薬学教育カリキュラムに基づいた実務実習の充実

薬学教育6年制課程における長期実務実習を適切に実施するため、受入施設の確保及び学生を指導する指導者の資質向上が重要であるとの認識のもと、安定した受入れ体制の維持と質の高い実務実習の充実を図ることを目的に、今年度も本会では、(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構(以下、関東地区調整機構)をはじめとする種々の教育関連機関と連携して各種事業を遂行した。

現行の薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づいた実務実習の充実した実施に向けて、学習成果基盤型教育(Outcome-Based Education、以下「OBE」)に基づく認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(薬学教育者ワークショップ)を今年度も引き続き実施する旨等に関する薬学教育協議会からの協力依頼を受け、本会では、安定した実務実習体制の維持を図るために、関東地区調整機構の認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ開催計画に則り、下記のとおり「関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ」を3回共催した。今年度も本会が事務局を担当したワークショップにおいては、実習時のトラブルを事前に回避することを目的に本会が作成したリーフレット「ハラスメントのない実務実習(2021年度改訂)」を配付した。

また、関東地区(調整機構単位)各県薬剤師会が事務局を担当した「関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ」(全7回)に、本会会員薬局から受講者30名(第1回3名、第2回3名、第4回6名、第9回3名、第10回3名、第12回4名、第13回8名)が参加した。これにより平成17年度(2005年度)より実施された認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(薬学教育者ワークショップ)への本会会員薬局からの総受講者数は今年度までに2,442名となった。

(一社)薬学教育協議会 認定実務実習指導薬剤師認定制度実施要領に基づく、「認定実務実習指導薬剤師」の認定要件となる「認定実務実習指導薬剤師 養成講習会(講習会形式の研修講座①②③)」を下記のとおり3回実施した。また、更新を迎える認定実務実習指導薬剤師を対象とした「認定実務実習指導薬剤師 更新講習会(講習会形式の研修講座④)」を養成講習会と同日開催で下記のとおり2回実施した。今年度より実務実習におけるハラスメントを無くすため「学生が安心して成長できるハラスメントのない実務実習を目指して」の講演を実施した。

本会では、より質の高い実務実習の実施に向け、指導に係る薬剤師全体のレベルアップを図るとともに地区の指導者を養成することを目的に、都内受入れ施設の認定実務実習指導薬剤師を対象とした「より質の高い実務実習を目指すためのアドバンスワークショップ(以下、「より質の高い実務実習を目指すためのADWS」と称す)を今年度は、全3回の開催を企画した。第1回は今後のADWSをより充実したものとするため、昨年並びに一昨年のタスクフォース参加者を中心とした各地区の実務実習責任者を対象に、第2回は都内23区、第3回は多摩地区の指導薬剤師を対象に下記の通り開催した。

継続した認定実務実習指導薬剤師の養成の観点から、病院・薬局実務実習関東地区調整機構

が推進する認定実務実習指導薬剤師養成事業において開催する、ワークショップにおけるタスクフォースの質の向上を図ることを目的に、「タスクフォースのスキルアップのためのアドバンストワークショップ」を企画し、下記の通り開催した。

【第3回 関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ】

開催日時：令和6年7月14日（日） 8：50～19：00

令和6年7月15日（月・祝） 8：50～18：00

開催場所：帝京大学 板橋キャンパス 3・4階講義室

共 催：(公社)東京都薬剤師会・(一社)薬学教育協議会・

(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

ディレクター：東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

東京都薬剤師会 副会長 高松 登

関東地区調整機構 委員長 中村 智徳

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一

タスクフォース：東京都薬剤師会 役員6名、実務実習委員会委員15名、

地区協力者3名、

東京都病院薬剤師会4名、帝京大学 薬学部1名

参加者：80名(3P9S)

参加者内訳：各地区薬剤師会35名、東京都病院薬剤師会18名、関東地区調整機構18名(各県・病院薬剤師会 茨城2名、群馬4名、千葉2名、神奈川9名、山梨1名)、大学9名

【第11回 関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ】

開催日時：令和6年10月13日（日） 9：00～19：00

令和6年10月14日（月・祝） 9：00～18：00

開催場所：武蔵野大学 有明キャンパス 5号館 1階・3～5階 講義室

共 催：(公社)東京都薬剤師会・(一社)薬学教育協議会・

(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

ディレクター：東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

東京都薬剤師会 副会長 高松 登

関東地区調整機構 委員長 中村 智徳

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一

タスクフォース：東京都薬剤師会 役員5名、実務実習委員会委員13名、

地区協力者3名、東京都病院薬剤師会4名

参加者：80名(3P9S)

参加者内訳：各地区薬剤師会38名、東京都病院薬剤師会17名、関東地区調整機構17名(各県・病院薬剤師会 埼玉6名、千葉3名、神奈川8名)、大学8名

【第14回 関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ】

開催日時：令和7年1月12日（日） 9：00～19：00

令和7年1月13日（月・祝） 9：00～18：00

開催場所：星薬科大学 新星館 1階・2階講義室

共 催：(公社)東京都薬剤師会・(一社)薬学教育協議会・

(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

コンサルタント：昭和大学 客員教授 中島 宏昭

ディレクター：東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

東京都薬剤師会 副会長 高松 登

関東地区調整機構 委員長 中村 智徳

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一

タスクフォース：東京都薬剤師会 役員4名、実務実習委員会委員8名、

地区協力者1名、東京都病院薬剤師会7名、

関東地区調整機構1名

参加者：53名(2P6S)

参加者内訳：各地区薬剤師会24名、東京都病院薬剤師会11名、関東地区調整機構12名(各県・病院薬剤師会 茨城2名、埼玉5名、神奈川5名)、大学6名

【関東地区調整機構主催 第3回 認定実務実習指導薬剤師 養成講習会】

開催日時：令和6年6月23日(日) 13:00~18:00

開催場所：帝京大学 板橋キャンパス 4階講義室

受講者：67名(内、受講証配付64名)

内容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 「学生が安心して成長できるハラスメントのない実務実習を目指して」(講演)
東京都薬剤師会 副会長 高松 登
3. 関東地区調整機構委員長 挨拶(ビデオ)
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構 委員長 中村 智徳
4. 講座①「薬剤師の理念」(ビデオ) 日本薬剤師会 会長 山本 信夫
5. 講座②-1「平成25年度 改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム」(講演)
講座②-2「薬学実務実習に関するガイドライン」(講演)
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構 日高 慎二
6. 講座③-1「学生の指導(法的問題)」(ビデオ) 弁護士・薬剤師 赤羽根 秀宜
7. 講座③-3「学生の指導(改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した
病院実務実習)」(ビデオ) 日本病院薬剤師会 石井 伊都子
8. 講座③-2「学生の指導(OBEに基づいた薬局実務実習の進め方)」(講演)
東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一

【東京都薬剤師会 第1回 認定実務実習指導薬剤師 更新講習会】

開催日時：令和6年6月23日(日) 13:00~15:30

開催場所：帝京大学 板橋キャンパス 4階講義室

受講者：66名

内容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 「学生が安心して成長できるハラスメントのない実務実習を目指して」(講演)
東京都薬剤師会 副会長 高松 登
3. 関東地区調整機構委員長 挨拶(ビデオ)
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構 委員長 中村 智徳
4. 講座①「薬剤師の理念」(ビデオ) 日本薬剤師会 会長 山本 信夫
5. 講座④-1「平成25年度 改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム」(講演)

講座④-2「薬学実務実習に関するガイドライン」(講演)

薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構 日高 慎二

【関東地区調整機構主催 第11回 認定実務実習指導薬剤師 養成講習会】

開催日時：令和6年9月8日(日) 13:00~17:50

開催場所：武蔵野大学 有明キャンパス 5号館 3階教室

受講者：63名(内、受講証配付61名)

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 「学生が安心して成長できるハラスメントのない実務実習を目指して」(講演)
東京都薬剤師会 副会長 高松 登
3. 関東地区調整機構委員長 挨拶 (ビデオ)
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構 委員長 中村 智徳
4. 講座①「薬剤師の理念」(ビデオ) 日本薬剤師会 会長 山本 信夫
5. 講座②-1「平成25年度 改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム」(講演)
講座②-2「薬学実務実習に関するガイドライン」(講演)
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構 浅井 和範
6. 講座③-1「学生の指導(法的問題)」(ビデオ) 弁護士・薬剤師 赤羽根 秀宜
7. 講座③-3「学生の指導(改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した
病院実務実習)」(ビデオ) 日本病院薬剤師会 石井 伊都子
8. 講座③-2「学生の指導(OBEに基づいた薬局実務実習の進め方)」(講演)
東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一

【関東地区調整機構主催 第14回 認定実務実習指導薬剤師 養成講習会】

開催日時：令和6年11月17日(日) 13:00~17:50

開催場所：星薬科大学 新星館 2階講義室

受講者：50名

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登
2. 「学生が安心して成長できるハラスメントのない実務実習を目指して」(講演)
東京都薬剤師会 副会長 高松 登
3. 関東地区調整機構委員長 挨拶 (ビデオ)
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構 委員長 中村 智徳
4. 講座①「薬剤師の理念」(ビデオ) 日本薬剤師会 会長 山本 信夫
5. 講座②-1「平成25年度 改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム」(講演)
講座②-2「薬学実務実習に関するガイドライン」(講演)
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構 伊東 明彦
6. 講座③-1「学生の指導(法的問題)」(ビデオ) 弁護士・薬剤師 赤羽根 秀宜
7. 講座③-3「学生の指導(改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した
病院実務実習)」(ビデオ) 日本病院薬剤師会 石井 伊都子
8. 講座③-2「学生の指導(OBEに基づいた薬局実務実習の進め方)」(講演)
東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一

【東京都薬剤師会 第14回 認定実務実習指導薬剤師 更新講習会】

開催日時：令和6年11月17日(日) 13:00~15:30

開催場所：星薬科大学 新星館 2階講義室

受講者：92名

内容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登
2. 「学生が安心して成長できるハラスメントのない実務実習を目指して」(講演)
東京都薬剤師会 副会長 高松 登
3. 関東地区調整機構委員長 挨拶 (ビデオ)
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構 委員長 中村 智徳
4. 講座①「薬剤師の理念」(ビデオ) 日本薬剤師会 会長 山本 信夫
5. 講座④-1「平成25年度改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム」(講演)
講座④-2「薬学実務実習に関するガイドライン」(講演)
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構 伊東 明彦

【令和6年度 第1回 より質の高い実務実習を目指すためのアドバンスワークショップ】

開催日時：令和6年7月28日(日) 13:00~18:25

開催場所：帝京平成大学 中野キャンパス 4階講義室

ディレクター：東京都薬剤師会 副会長 高松 登

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一

タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 10名

参加者：32名(1P4S)

参加者内訳：タスクフォース経験者 23名、エリア責任者・指導的立場の方 9名

【令和6年度 第2回 より質の高い実務実習を目指すためのアドバンスワークショップ】

開催日時：令和7年2月9日(日) 13:00~18:30

開催場所：帝京大学 板橋キャンパス 4階講義室

ディレクター：東京都薬剤師会 副会長 高松 登

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一

タスクフォース：東京都薬剤師会 役員・実務実習委員会 委員 6名

各地区薬剤師会 11名(日本橋、港区、新宿区、品川区、玉川砦、大田区、
杉並区、板橋区、練馬区、足立区、江戸川区 各1名)

参加者：33名(1P5S)

参加者内訳：都内23区参加者 32名

他地区参加者 1名(三鷹市)

【令和6年度 第3回 より質の高い実務実習を目指すためのアドバンスワークショップ】

開催日時：令和7年2月16日(日) 13:00~18:15

開催場所：東京薬科大学 5号館 2階講義室

ディレクター：東京都薬剤師会 副会長 高松 登

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一

タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員 7名

各地区薬剤師会 7名(西多摩、八王子市、南多摩、狛江市、
北多摩、三鷹、武蔵野市 各1名)

参加者：29名(1P4S)

参加者内訳：多摩地区参加者 29名

【令和6年度 タスクフォーススキルアップのためのアドバンスワークショップ】

開催日時：令和6年10月27日（日） 9:00～18:30

開催場所：東京都薬剤師会 3・4階会議室

ディレクター兼チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 副会長 高松 登

タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員1名

関東地区調整機構 2名

参加者：27名(1P3S)

参加者内訳：東京都薬剤師会 役員5名、実務実習委員会委員11名、

地区協力者2名

東京都病院薬剤師会5名、近県薬剤師会3名（埼玉県2名、千葉県2名、神奈川県1名）

（7）地区薬剤師研修会への支援と都薬アワーの実施

都内28地区ごとに、薬剤師を対象に年2回の研修会を実施した。研修は都薬アワー、臨床薬学講習、社会保険講習を中心に実施され、都薬アワーに講師を派遣するとともに開催経費の助成を行った。第1回の都薬アワーでは、本会の令和6年度活動テーマ「薬局DXの推進とかかりつけ薬剤師の多職種連携で地域のハーモニーを奏しよう！」をもとに「東京都薬剤師会の活動重点項目」「東京都からのお知らせ」「研修シラバスとt-MYLSの新規コンテンツの活用」「東京都薬剤師会の広報活動について」「地域薬局に求められる役割」について本会講師が説明した。

第2回の都薬アワーでは、「医薬品の適正使用のために薬剤師にできること」「薬局・薬剤師の機能強化等に関する検討会」「心不全と薬剤師の今」「電子処方箋の普及に向けて」「感染症予防に関するQ&A 追補版」について説明した。

開催地区及び各研修会の参加人数等は【資料2】のとおりである。

また、直接会員に対しては、都薬アワーのオンデマンド配信を実施した。配信期間は、第1回は令和7年12月1日～12月8日、第2回は令和7年3月1日～3月8日とし、その間に各回222名の受講申し込みがあり、再生回数はそれぞれ128回、94回（チャンネル登録者数14名）であった。

（8）学術倫理特別委員会の実施・運用

学術倫理特別委員会は、会員薬局、本会の地区及び職域薬剤師会、並びに本会各委員会等が実施する医学薬学領域における調査・研究の倫理的妥当性を審査することを目的として、平成26年に設置された。日本薬剤師会学術大会では第52回（令和元年）より、演題登録時に倫理的配慮に関して確認が求められるようになり、現在では多くの学会で確認が行われている。

令和6年度は、前年度の改正対応を踏まえ、倫理的妥当性の確保と手続きの円滑な運用に努めながら、研究内容に応じた適切な審査を実施した。

本年度は4件の審査申請を受け付け、うち1件を承認した。

（9）次世代薬剤師育成事業の実施

次世代を担う薬剤師の育成や、地域医療において重要な役割を果たす地域薬局の維持を目指し、薬学生や若手薬剤師を対象とした取り組みを進めている。令和5年度より次世代薬剤師育

成ワーキンググループを設置。学生委員の企画立案で令和6年度は「薬剤師のリアルを聴いてみよう！」(全2回)を開催した。都内薬科大学・薬学部¹に在籍の薬学生を中心に、延べ人数87名(第1回20名、第2回67名)が参加し、薬剤師としてのキャリアデザインや様々な職種で活躍している薬剤師と意見交換を行った。

一方で、会員薬局に対しては、勤務者の高齢化や、後継者不足といった人的資源の課題解消の支援に資するよう準備を開始している。次年度以降においても、引き続き薬学生や薬剤師のスキルやキャリアに応じ、倫理観や深い思考力を有する薬剤師の育成を図っていく。

(10) オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修会の実施等、女性の健康への支援
当会と東京産婦人科医会において、女性の健康支援のための薬局と産婦人科医の連携体制構築を進めた。

また、今年度もオンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に対応できる多くの薬剤師を養成するため、Web研修にてオンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修会を下記のとおり開催した。

【オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修会】

開催日時：令和7年3月3日(月)～3月10日(月)

開催方法：Webを用いたオンデマンドによる配信

申込者数：1,462名(内、会員外929名)

修了者数：1,430名(内、会員外915名)

内 容：(日本薬剤師会作成動画DVD、事前に撮影した映像を使用)

1. オンライン診療の適切な実施に関する指針と緊急避妊薬の調剤について

日本薬剤師会 常務理事 豊見 敦

2. オンライン診療に伴う緊急避妊薬処方上の留意点

(1) 薬剤師も意識すべきSRHRと現代女性の健康課題

(2) 性差医療と社会的健康課題

(3) 緊急避妊をめぐる課題とその背景

一般社団法人 東京産婦人科医会 副会長

医療法人社団 ウィミンズ・ウェルネス

女性ライフクリニック銀座・新宿 理事長 対馬 ルリ子

3. 「オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤について」

(1) 薬局での調剤の手順について

日本薬剤師会 常務理事 亀井 美和子*

(2) 患者対応等について

一般社団法人 日本女性薬剤師会 副会長

薬剤師生涯学習センター「性の健康」検討委員会 委員長 小宮山 貴子*

4. 変更点等について

東京都薬剤師会 理事 小林 百代

* 収録時の役職(令和3年3月)

2-2 薬局機能の充実対策

(1) 「地域連携薬局」、「専門医療機関連携薬局」の認定に向けた事業の実施と支援

日本医療薬学会では、専門医療機関連携薬局の制度に基づき、「地域薬学ケア専門薬剤師制度」を創設し、基幹施設(病院)と連携施設(薬局)による連携体制の中で、質の高い薬物療法を実践するための研修枠組みを整備している。

例年、日本医療薬学会の依頼に基づいて、次年度4月開始予定の研修希望者（薬局薬剤師）と基幹施設（病院）のマッチングを体制整備して行っている。本年度も調整に向けて基幹施設と協議し受入枠を確保していたが、申請がなかったためマッチングは行われなかった。

（2）健康サポート薬局の取得に向けた事業の実施と支援

（2-2（7）「健康サポート薬局に取り組む薬剤師への研修会A及び研修会Bの実施と各地区での実施への支援」の項を参照）

（3）基準薬局の認定・更新

基準薬局制度はその発足以来、薬局並びに薬剤師による医薬分業と地域医療の推進の基盤を担ってきたが、平成27年3月末日をもって日薬による基準薬局制度は発展的に解消された。しかし、地域医療に貢献する医療提供施設として基準となる薬局の姿を社会に示し推進していくことは、これからも大変重要であると考えられるため、今後も当会として基準薬局制度を堅持していくこととし、日薬の認定基準に加え独自の基準を定めて、基準薬局中央研修会等を開催し、会員薬局に対して認定取得の推進、指導を行ってきた。今年度は、更新中間期にあたっていたが新たな追加申請はなく、7薬局の廃業があったため最終的に基準薬局認定数は475薬局となった。

今年度で認定期間が満了となることから、来年度の新たな認定申請に向け、認定基準項目の見直しを行った。

また、令和6年度基準薬局中央研修会を開催した（2-1（5）③「令和6年度基準薬局中央研修会の開催」の項を参照）。

（4）充実した実務実習受入れ態勢の整備

実務実習受入れ態勢の整備と、本会と各エリア間の連携強化を図るため、各地区の実務実習エリア責任者・担当者を対象に、下記のとおり「薬局実務実習受入のためのエリア担当者会議」（以下、エリア担当者会議）を開催した。

本会議では、学生が安心して成長できる実務実習を目指してハラスメントの注意事項を再確認するとともに、令和6年7月に開催した「より質の高い実務実習を目指すためのアドバンスワークショップ（ADWS）」の内容を踏まえ、各エリア責任者・担当者と本会との相互間の連携を図り、各エリア内での問題点とその具体的な対応策と受入れ施設数の増加、より多くの実務実習指導薬剤師の方々に参加していただける「より質の高い実務実習を目指すためのADWS」の開催、そして今後のより充実した薬局実務実習に向けて協議を行った。（2-1（6）「認定実務実習指導薬剤師の養成・更新及び次期改訂内容を踏まえた薬学教育カリキュラムに基づいた実務実習の充実」の項を参照）。

令和7年度の実務実習受入れに当たり、実務実習における薬局、病院、大学の三者の連携を深め、施設（薬局・病院）での薬学生受入を円滑に行うため、準備や注意事項の伝達を目的とした「令和7年度 実務実習受入伝達講習会」を下記のとおりオンライン配信で開催した。

今年度講習会では、関東地区調整機構より令和6年度実務実習の状況報告と令和7年度方針、さらに学生受入にあたり、大学、薬局、病院、それぞれの立場から「連携・教育」について説明し、薬局・病院で効果的な学習を行うために工夫し学生が成長した事例や大学、薬局、病院での実務実習の効果的な実習の事例を紹介し、加えて、実務実習受け入れ時の注意点及び、令和6年度の実務実習終了時のアンケート結果について報告した。

本講習会へは、令和7年度薬局実務実習受入薬局の指導に係る全薬剤師をはじめ、各地区の

実務実習エリア責任者やエリア担当者に加え、東京都病院薬剤師会との事業連携に関する覚書に基づく連携のもと、東京都内の病院で指導を行っている指導薬剤師、並びに各大学との情報共有を図る目的で関東地区 24 薬科大学・大学薬学部の薬局実務実習担当教員を招請し、多くの関係者に伝達した。

令和元年度から設置した「都内大学との実習施設情報の共有と対応ワーキンググループ」では、今年度も本会と都内 10 薬科大学・大学薬学部間で実務実習終了後の実習情報を交換し、実習中のトラブルを早期に防止するための対応策について協議・検討を行った。

【薬局実務実習受入のためのエリア担当者会議】

開催日時：令和6年11月16日(土) 18:00～20:40

開催場所：日本教育会館 8階 第二会議室

出席者：地区薬剤師会役員、各エリア実務実習受入責任者・担当者 56名

内容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登
2. 薬局実務実習受入に関するエリア担当者へのお願い
東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一
3. 学生が安心して成長できるハラスメントのない実務実習を目指して
～エリア担当者の皆様へ～
東京都薬剤師会 副会長 高松 登
4. 令和6年度第1回より質の高い実務実習を目指すためのADWSのフィードバック及び令和6年度第2,3回より質の高い実務実習を目指すためのADWSの開催について
東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員長 興水 淳
5. 各グループに分かれての情報共有
6. 質疑応答

【令和7年度 実務実習受入伝達講習会】

開催日時：令和7年2月2日(日) 9:30～12:50

開催方法：オンラインによるライブ配信

受講者：422名(東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員を含む)

受講者内訳：各地区の令和7年度実務実習受入施設の指導薬剤師等 398名、
関東地区 24 大学のうち 20 大学^{*}の薬局実務実習担当教員 24 名

^{*} 参加大学：国際医療福祉大学、高崎健康福祉大学、城西大学、
日本薬科大学、城西国際大学、千葉科学大学、
東京理科大学、東邦大学、北里大学、慶應義塾大学、
昭和大学、昭和薬科大学、帝京大学、帝京平成大学、
東京大学、東京薬科大学、武蔵野大学、明治薬科大学、
横浜薬科大学、湘南医療大学

内容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 開催趣旨説明 東京都薬剤師会 副会長 高松 登
3. 関東甲信越地区での実務実習状況報告と来年度方針
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構 委員長 中村 智徳
4. 大学・薬局・病院で考える三者連携・教育
4-1. 大学で考える三者連携・教育
東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員 伊東 育己

4-2. 薬局で考える三者連携・教育

東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員 織田 理佳子

4-3. 病院が考える三者連携・教育薬学の楽しさと薬剤師の責任をつなぐ

実務実習を目指して～病院での実習を行う上でのこころがけ～

東京大学医科学研究所附属病院 薬剤部 薬剤部長 黒田 誠一郎

5. 実務実習受入れに関する注意事項と令和6年度実務実習終了時のアンケート結果報告

東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一

6. 質疑応答

進行：東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員長 興水 淳

7. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 高松 登

(5) 薬局業務研修会の実施

今年度は、「セルフケア・セルフメディケーション」をテーマに薬局業務研修会を下記のとおり開催した。

【薬局業務研修会】

開催日時：令和7年1月26日(日) 12:30～16:00

開催場所：日本教育会館 一ツ橋ホール

受講者：357名(内、会員外14名)

内 容：

- 挨拶
東京都薬剤師会 副会長 宮川 昌和
- flatな薬局に必要なセルフメディケーション
ー地域包括ケアに必要な薬局の役割ー
厚生労働省 医薬局 医薬品審査管理課長 中井 清人
- 人口減少社会の中で上手な医療のかかり方、
セルフケア・セルフメディケーションを進める意義と薬剤師の役割
日本OTC医薬品協会 理事長 磯部 総一郎
- 地域に根ざした薬局づくり ～選ばれる理由につながる物販戦略～
有限会社ファルマ 代表取締役/たむら薬局 田村 憲胤
- 薬局におけるOTC医薬品取り扱い実態調査の結果報告
公益社団法人 東京都薬剤師会 理事 大野 郁子
- パネルディスカッション
座長：東京都薬剤師会 薬局業務委員会 委員長 井手口 直子
パネリスト：厚生労働省 医薬局 医薬品審査管理課長 中井 清人
日本OTC医薬品協会 理事長 磯部 総一郎
有限会社ファルマ 代表取締役/たむら薬局 田村 憲胤
東京都薬剤師会 薬局業務委員会 委員 松本 高之
東京都薬剤師会 薬局業務委員会 委員 樋口 真美
- セルフケア・セルフメディケーション研修会のご案内
公益社団法人 東京都薬剤師会 常務理事 犬伏 洋夫

(6) 薬機法に対応した医薬品等の適正使用の推進及び供給体制整備等に関する周知徹底に資する資料提供

(8. (2) 『薬事衛生自治指導教本』の作成と講習実施』の項を参照)

(7) 健康サポート薬局に取り組む薬剤師への研修会 A 及び研修会 B の実施と各地区での実施への支援

平成 28 年 4 月に施行された健康サポート薬局については、薬局が健康サポート薬局である旨の表示を行うにあたり、厚生労働大臣が定める基準第三号で規定される常駐する薬剤師の資質に係る「要指導医薬品及び健康食品等の安全かつ適正な使用に関する助言、健康の保持増進に関する相談並びに適切な専門職種または関係機関への紹介等に関する研修」を全て受講した後に発行される研修修了証の添付提出が必須である。日本薬剤師会と日本薬剤師研修センターが共同で、厚生労働省が指定する第三者機関(指定確認機関)である(公社)日本薬学会から健康サポート薬局に係る研修の実施機関として確認を受けたことから、当会は、日本薬剤師会との共催で技能習得型《研修会 A》並びに《研修会 B》の開催協力を昨年度に引き続き行い、日本薬剤師会より発出された「健康サポート薬局に係る研修」通知文である「その 79~85」の内容を把握し、地区薬剤師会に伝達した。

また、当会で《研修会 A》及び《研修会 B》を各 1 回開催したほか、地域単位での《研修会 A》を 5 回、《研修会 B》を 3 回、開催の共催をした。《研修会 A》は合計 235 名、《研修会 B》は合計 107 名に対して規定に則り受講証明書を発行した。

なお、申し込み方法は、当会ホームページを活用した受講手続きを企画し、電子メールを用いて対応することにより正当かつ的確に事務処理を行った。

【令和 6 年度 健康サポート薬局に係る技能習得型研修 《研修会 A》】

開催日時：令和 6 年 10 月 6 日(日) 10:00~14:30

開催場所：帝京平成大学 中野キャンパス

内 容： 司会：東京都薬剤師会 薬局業務委員会 副委員長 長田 哲治
自己評価表 受講前チェック

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 宮川 昌和

2. 基本理念

(1)「健康サポート薬局の基本理念」(DVD 講義・役職は収録当時)

日本薬剤師会 会長 山本 信夫

日本薬剤師会 副会長 田尻 泰典

(2)健康サポート薬局の理念～地域包括ケアに対応した薬局・薬剤師～

「私たちが目指す健康サポート薬局の姿」 東京都薬剤師会 理事 小林 百代

(3)グループ討議：薬局が地域の資源とどのように繋がるか

東京都薬剤師会 薬局業務委員会 副委員長 長田 哲治

3. 東京都の医療・保健・健康・介護・福祉等の資源と健康サポート薬局の連携

(1)東京都の健康課題と健康増進施策～健康サポート薬局への期待～

東京都保健医療局 保健政策部 健康推進事業調整担当課長 小澤 康子

(2)他職種等の取り組みについて～健康サポート薬局との連携を探る～

1)練馬区の取り組み～高齢者みんな健康プロジェクト～

(高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施)

練馬区高齢施策担当部 高齢者支援課 高齢者健康支援係 係長 根岸 恵美子

2)患者に選ばれる薬局づくり～地域で活躍する“次世代薬剤師”へのエール～

患医ねっと 代表 鈴木 信行

(3)東京都の医療・保健・健康・介護・福祉等の資源と役割の現状

東京都薬剤師会 常務理事 和田 早也乃

4. 演習 進行：東京都薬剤師会 理事 伊藤 威

5. まとめ
6. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 理事 伊藤 威
東京都薬剤師会 常務理事 犬伏 洋夫

(応募・出席状況)

区分	人数
一般	20
会員	83
応募者計	103

出席・レポート提出 (受講証明書発行数)	一般	20	99
	会員	79	
欠 席	一般	0	4
	会員	4	
応募者計			103

【令和6年度 健康サポート薬局に係る技能習得型研修 《研修会B》】

開催日時：令和6年10月6日(日) 15:00～19:40

開催場所：帝京平成大学 中野キャンパス

内 容： 司会：東京都薬剤師会 理事 小林 百代
自己評価表 事前チェック

1. 挨拶 東京都薬剤師会 副会長 宮川 昌和
2. 薬局・薬剤師を巡る現状と健康サポート薬局

東京都薬剤師会 常務理事 和田 早也乃
3. 一般用医薬品等を取り巻く現状 (DVD 講義・役職は収録当時)

日本薬剤師会 常務理事 岩月 進
4. 薬局利用者の状態把握と販売時と販売後の対応 (演習) (DVD 講義)

講師：日本薬剤師会 一般用医薬品等委員会 委員長 亀山 貴康
昭和大学薬学部 社会健康薬学講座 医薬品評価薬学部門
准教授 亀井 大輔

演習進行：東京都薬剤師会 理事 小林 百代
東京都薬剤師会 常務理事 犬伏 洋夫

5. まとめ

6. レポート作成

(応募・出席状況)

区分	人数
一般	12
会員	48
応募者計	60

出席・レポート提出 (受講証明書発行数)	一般	12	58
	会員	46	
欠 席	一般	0	2
	会員	2	
応募者計			60

なお、地区における開催地域及び研修会の参加人数等は【資料4】のとおりである。

(8) 登録販売者研修会の実施

平成24年度より一般用医薬品の販売に従事するすべての登録販売者に対し、毎年12時間以上の外部研修を受講することが義務化された。令和4年度より外部研修実施機関の認可先が厚生労働省に変更となったことから、新たに厚生労働省から外部研修実施機関の認可を受け、会員の薬局並びに店舗販売業に従事する登録販売者を対象に、ガイドラインに沿ったカリキュラムを基に、令和6年度登録販売者研修会を下記のとおり開催した。本研修会は、オンデマンド

配信により実施し 83 名の受講者に修了証を発行した。尚、本研修会は毎年 1 回開催していたが、多忙な中参加する受講者の利便性を鑑みた結果、毎年複数回開催される、登録販売者への研修に特化した他団体にて実施される研修会を案内し、令和 6 年度をもって本研修会（外部研修）を終了した。

【令和 6 年度 登録販売者研修会】

開催日時：令和 6 年 11 月 5 日(火)～11 月 25 日（月）

開催方法：オンデマンド配信

受講者：83 名

内 容：

1. 挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 適切な助言に至る思考（アルゴリズム）～来局者からの相談に対応するために～
東京都薬剤師会 理事 浅井 和範
3. 症状からみた医薬品の適用とその作用（解熱鎮痛薬）
東京都薬剤師会 理事 田中 英朗
4. アレルギー反応と代表的な症状への対応 ～鼻炎、結膜炎～
東京都薬剤師会 理事 日下部 吉男
5. 消化器：胃腸薬、便秘
泌尿器：排尿障害
婦人科薬 等 東京都薬剤師会 理事 伊藤 威
6. 整形外科で使用する薬について 東京都薬剤師会 理事 日下部 吉男
7. 皮膚の基礎知識と皮膚疾患 ～にきび・いぼ・皮膚疾患～
東京都薬剤師会 理事 藤尾 絵美
8. ビタミン主薬製剤、ビタミン含有保健薬等について
東京都薬剤師会 理事 會田 一恵
9. 風邪の漢方薬と市販でよく使用される漢方薬
東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一
10. 最近の薬務行政・医薬品販売制度について
東京都薬剤師会 理事 町田 奈緒子
11. 一般用医薬品の適正使用と安全対策
東京都薬剤師会 理事 小林 百代
12. 登録販売者に求められる接遇コミュニケーション
東京都薬剤師会 理事 三溝 学
13. 薬局ヒヤリ・ハット事例から学ぶ～医薬品情報の収集と活用方法～
東京都薬剤師会 理事 大野 郁子

（9）高度管理医療機器等営業所管理者等継続研修の実施

開催日時：令和 6 年 11 月 1 日(金)～11 月 11 日（月）

開催方法：オンデマンド配信

修了者：2,022 名（内、基準薬局会員 307 名、会員 1,553 名、会員外 162 名）

修了者内訳：

東京都 1,663 名、神奈川県 129 名、埼玉県 124 名、千葉県 97 名、茨城県 4 名、栃木県 2 名、群馬県 1 名、北海道 1 名、静岡県 1 名

内 容：＜日本薬剤師会作成のコンテンツを利用＞

1. 医薬品医療機器等法及び関連法令

公益財団法人 医療機器センター 常務理事 新見 裕一

2. 医療機器の品質管理

一般社団法人 日本医療機器産業連合会 販売・保守委員会 委員
浦富 恵輔

3. 医療機器の不具合報告及び回収報告

一般社団法人 日本医療機器産業連合会 PMS 委員会 委員 三田 哲也

4. 医療機器の情報提供および薬剤師が知っておきたい機器等の話題

公益財団法人 医療機器センター 医療機器産業研究所 主任研究員
本田 大輔

※ 当日資料：令和6年度継続研修テキスト(医療機器センター)

(10) 医薬品流通のための連絡協議会の開催

医療用医薬品の適切な流通を目的とし、平成28年より東京医薬品卸業協会の役員と当会役員で本協議会を設立し、医薬品の安定供給に関して連携体制の構築に努めてきた。令和6年度においては、依然として一部医薬品の供給不足が継続しており、関係者間での情報共有や課題認識を模索したものの、新たな制度改正や流通構造の大きな変化等は見られなかったことから、対面での協議会開催には至らなかった。

協議会の意義を踏まえ、必要に応じて迅速に意見交換が可能となるよう、今後も関係機関との情報共有体制を維持し、医薬品供給に関する課題が発生した際には、速やかに開催・対応できるよう引き続き準備を整えていく。

(11) セルフケア・セルフメディケーションの推進を目的とした会員薬局への啓発

地域住民の健康維持・増進に繋がるセルフケア・セルフメディケーションへの取り組みが重要なものとなっていることから、地域住民への健康支援の参考となるよう、健康イベントを実施している薬局の取り組みを紹介する動画を撮影し、t-MYLSにて公開した。

また、薬局において調剤だけでなくOTC医薬品への取り組みも求められていることから、会員薬局におけるOTC医薬品の取り組み状況を把握すること等を目的として、「OTC医薬品取り扱い実態調査」を実施した。その結果を研修会等を通じて会員へ報告すると共に、研修会の開催にあたり内容検討の参考とした。

令和6年度薬局業務研修会では「セルフケア・セルフメディケーション」に係る内容を企画し開催した(2-2(5)「令和6年度薬局業務研修会の開催」の項を参照)。

さらに、具体的かつ地域のニーズに則した健康支援の実践とすべく、新たにセルフケア・セルフメディケーション研修会を下記のとおり開催した。

【セルフケア・セルフメディケーション研修会】

開催日時：令和7年3月23日(日) 10:00~13:15

開催場所：帝京大学 薬学部(板橋キャンパス)

参加薬局数：19薬局(参加者数：50名)

内 容：

1. 挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

2. OTC販売を充実させるための戦術と実践アプローチ

有限会社ファルマ 代表取締役/たむら薬局 田村 憲胤

3. 薬局で出来る健康サポートイベント

4. ワークショップ「明日から起こす変化」
5. 発表・振り返り 公益社団法人 東京都薬剤師会 理事 伊藤 威
6. 閉会挨拶 公益社団法人 東京都薬剤師会 副会長 宮川 昌和

2-3 地域医療対策

(1) 東京都の保健医療計画等各種計画への積極的な対応

各協議会等に委員として参画し意見するとともに、薬局・薬剤師の役割が計画に反映されるよう働きかけた。

(2) 東京都保健医療計画に対応する地域医療構想調整会議への参加と協力

地域保健医療協議会に委員が参加し、地域医療の課題への対応を協議するとともに、チーム医療の中で、薬局・薬剤師が役割を果たせるよう連携体制の構築に努めた。

(3) 切れ目のない薬物療法の提供に向けた薬・薬連携の推進

【令和6年度 薬薬連携を推進するための研修会～心不全患者さんへのフォローアップの視点を学ぼう～】

開催日時：令和7年2月2日(日) 12:30～16:10

開催場所：エッサム本社ビル3階グリーンホール

参加者：20名(内、会員18名)

内 容：

1. 開会の挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登
2. 【基調講演】心不全と薬物療法について
公益財団法人日産厚生会玉川病院 医療技術部薬剤科
薬剤師/心不全療養指導士 大館 祐佳
3. スモールグループディスカッション・質疑応答
 - ・【病院薬剤師の立場で】症例を用いた心不全薬剤管理サマリーの作成について
 - ・【薬局薬剤師の立場で】症例を用いたフォローアップシートの活用についてタスクフォース：公益財団法人日産厚生会玉川病院 医療技術部薬剤科
薬剤師/心不全療養指導士 大館 祐佳
東京都心不全療養指導薬剤師ネットワーク 代表
東京都立墨東病院 薬剤科 中島 美知穂
東京都済生会中央病院 薬剤部 佐々木 真理子
東京都薬剤師会 薬・薬連携委員会 委員
4. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 松本 雄介

(4) 地域包括ケアシステムへの参画に向けた在宅医療・介護提供体制の整備

昨年度に引き続き、令和6年度も都内の薬局又は薬剤師に対し、「在宅医療に関する知識・技能を有する人材の確保」、「地域連携促進に向けた体制構築、関係者との協力関係構築」、「地域住民に対するかかりつけ薬剤師・薬局機能の普及啓発」を実施し、薬局・薬剤師の地域包括ケアシステムへの参加促進を図る」ことを目的とした「地域包括ケアシステムにおける薬局・

薬剤師の機能強化事業」を東京都より受託した。

当該委託事業実施要領や地域支援事業についての情報などを地区薬剤師会経由で会員に周知するとともに、「薬局・薬剤師の機能強化事業 地区担当者会議」を開催して昨年度各地区薬剤師会が実施した事業の報告と本年度事業の説明を行い、各地区薬剤師会に事業の実施を依頼した。

また、新たな薬局活用のための基盤整備や多職種連携を強化するとともに、在宅患者への訪問服薬指導に必要な知識について解説する「在宅訪問ステップアップ研修会」を実施した。今後在宅医療に参画する意思はあるものの、いまだ取り組めていない薬剤師に向けた基本的知識や書式類、在宅で扱う医療材料の取り扱い等をわかりやすく解説する基礎研修と、特定のテーマにおける具体例の列举、医師・薬剤師・訪問看護師等を講師に招きディスカッション等を実施する座学研修を計3日程のZoom形式で開催した。第1回は「在宅医療初期講習」(315名)、第2回は「ACPの理解」(299名)、第3回は「ターミナル期における非がんの緩和医療」(288名)をテーマに開催した。

無菌調製技能習得研修では、これまでの「薬局・薬剤師在宅療養支援促進事業」と同様に、都内薬系大学と協力して研修を実施した。前年度同様、従来からの無菌調製に関する基本的な知識・手技を行う基礎研修(於：帝京平成大学)に加え、今後の地域包括ケアシステムの実現に向けて、在宅における緩和ケア医療に関する基本的な知識や疼痛管理における輸液ポンプ操作等の手技を行うステップアップ研修(於：星薬科大学)を実施した。

また、令和3年度から、服薬情報等提供書(トレーシングレポート、以降TR)により保険薬局から医療機関へ積極的に服薬情報等を提供できる環境を整備して、患者の服薬状況等の一元的・継続的な把握を進め、質の高い医療の提供を目指すことを目的とした「薬薬連携推進事業」を実施している。令和3年度から5年度の事業結果をふまえ、今年度から令和8年度にかけてはTRの内容の充実とともに、薬薬連携の体制整備のさらなる推進と質の向上を図るべく、9月28日に薬薬連携実践推進研修会を、12月1日に薬薬連携実践推進担当者研修会議を開催した。また、「薬薬連携推進関係者連絡会」を令和7年3月に開催し、今年度の取り組みの結果について報告した。

「薬局・薬剤師の機能強化事業 地区担当者会議」では事業概要の説明を行った後に各地区で計画に則り研修会を開催した。多職種連携による訪問服薬指導の推進における地域薬局連携のための研修会(Ⅱ-a1)は22地区で実施した。地域施設実地研修(Ⅱ-a2)では、無菌調剤室設置施設での実地調製研修を26地区で実施した。地域包括ケアシステムの早期実現に向けて地域ごとの問題、構築方法等について検討する多職種連携連絡会(Ⅱ-a3)は28地区で実施した。地域連携構築に向けた多職種間における連携促進・啓発(Ⅱ-b)では、住民への啓発並びに連携促進を27地区薬剤師会で実施した。多職種との連携促進のうち、関係者連絡会では3月の会議で年度活動結果を報告した。

地域薬局間連携研修と地域連携構築支援事業に関する開催地区及び各研修会の参加人数等は【資料3】のとおりである。事業報告地区数は前年より微減したが、同一地区による研修会、講習会の複数回の開催など報告件数の増加傾向が見られた。

【地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業 地区担当者会議】

開催日時：令和6年7月27日(土) 18:00~19:40

開催場所：TKP 神田ビジネスセンター ホール401

参加人数：43地区64名

研修内容：

1. 開会挨拶

東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

2. 令和6年度 東京都委託事業について
東京都保健医療局 健康安全部 薬務課 事業連携担当 鎌田 智之
3. 令和5年度事業報告・令和6年度事業について
東京都薬剤師会 常務理事 松本 雄介
4. 杉並区薬剤師会-令和5年度事業報告
杉並区薬剤師会 理事 滝波 園彼
5. 板橋区薬剤師会-令和5年度事業報告
板橋区薬剤師会 理事 石鍋 公載
6. 【討論】シンポジウム形式
座長：東京都薬剤師会 理事 伊藤 威
東京都薬剤師会 常務理事 松本 雄介
東京都保健医療局 健康安全部 薬務課 事業連携担当 鎌田 智之
杉並区薬剤師会 理事 滝波 園彼
板橋区薬剤師会 理事 石鍋 公載
7. 閉会挨拶
東京都薬剤師会 副会長 高松 登

【令和6年度 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業 関係者連絡会】

開催日時：令和7年3月6日（木） 18:00～19:40

開催場所：東京都薬剤師会館 4階会議室

出席者：9名

(委員)	東京都医師会 理事	佐々木 聡
	東京都看護協会 常務理事	佐川 きよみ
	東京都訪問看護ステーション協会 代表理事	篠原 かおる
	東京都介護支援専門員研究協議会 副理事長	池野上 昇
	東京都薬剤師会 常務理事	松本 雄介
	東京都薬剤師会 常務理事	根本 陽充
	東京都薬剤師会 理事	會田 一恵
(オブザーバー)	東京都保健医療局 健康安全部薬務課 事業連携担当	鎌田 智之
	東京都薬剤師会 事務局長	河野 安昭

内容：

1. 挨拶
2. 東京都委託事業について
3. 委員・出席者自己紹介
4. 東京都薬剤師会における令和5年度 地域包括ケアシステム薬局・薬剤師の機能強化事業の取組について
5. 令和6年度 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業
～練馬区における取組事例～

6. 質疑応答

【在宅訪問ステップアップ研修会】

令和6年度 第1回ステップアップ研修会

開催日時：令和6年11月7日(木)19:00～21:00

開催場所：東京都薬剤師会 4階会議室・Zoom ウェビナー

参加人数：315名

研修内容：

1. 開会挨拶

東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

2. 東京都福祉保健局より

東京都 保健医療局 健康安全部 薬務課 事業連携担当 鎌田 智之

3. 東京都薬剤師会より

東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充

4. 講義

「はじめて在宅訪問する前に知っておきたいこと」

東京都薬剤師会 理事 伊藤 威

「在宅医療で連携する多職種辞典 2024年版」

東京都薬剤師会 理事 會田 一恵

5. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 高松 登

【令和6年度 第2回ステップアップ研修会】

開催日時：令和6年11月21日(木) 19:00～21:00

開催場所：東京都薬剤師会 4階会議室・Zoom ウェビナー

参加人数：299名

研修内容：

1. 開会挨拶

東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充

2. 講義

「ACP (アドバンスケアプランニング) の理解について」

光が丘訪問看護ステーション 管理者/主任介護支援専門員 永沼 明美

「ACP の理解について ～意思決定支援 納得して決めるために～」

医療法人社団 悠翔会 看護事業部長 岩本 ゆり

「シンポジウム ～質疑応答～」

(講師3名+東京都薬剤師会 常務理事) 根本 陽充

3. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 高松 登

【令和6年度 第3回ステップアップ研修会】

開催日時：令和6年12月5日(金) 19:00～21:00

開催場所：東京都薬剤師会 4階会議室・Zoom ウェビナー

参加人数：288名

研修内容：

1. 挨拶

東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充

2. 講義

「ターミナル期における非がんの緩和医療について」

桜新町アーバンクリニック 院長 在宅医療部 遠矢 純一郎

「ターミナルケア～チームの一員として薬局薬剤師ができること～」

医療法人社団 三育会 新宿ヒロクリニック 総務部長 齊藤 直裕

「シンポジウム ～質疑応答～」

(講師3名+東京都薬剤師会 常務理事) 根本 陽充

3. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 高松 登

【無菌調製技能習得研修会（ステップアップ研修）】

開催日時：令和7年2月24日(月・祝) 10:00～16:25

開催場所：星薬科大学 第二新館 7階講義室、臨床実習室、無菌製剤室

参加者：28名* (内、修了証配付28名)

*「無菌調製技能習得研修会」の修了証を有する者

内容：

<講義>

1. 開講にあたって

東京都保健医療局健康安全部 薬務課長 中島 真弓

星薬科大学 学長 牛島 俊和

東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

2. 疼痛管理におけるPCAポンプの役割

東京都薬剤師会 薬・薬連携委員会 副委員長 添石 遼平

3. 緩和医療の基礎知識

星薬科大学 実務教育研究部門 教授 佐野 元彦

<実習>

1. 無菌調製の基本操作と持続注入ポンプの薬液調製

東京都薬剤師会 薬・薬連携委員会 委員 前田 桂吾

2. CADD-Solisポンプの機能と操作方法

スミスメディカル・ジャパン株式会社

Infusion Therapy Sales 東日本リージョン 鈴木 偉宏

3. 閉会式(統括・修了証の授与)

【無菌調製技能習得研修会（基礎研修）】

<講義>

開催日時：令和7年2月11日(火・祝) 9:30～15:05

開催形式：オンライン配信

受講者：116名

講義内容：

1. 開講にあたって

東京都保健医療局 健康安全部 薬務課長 中島 真弓

帝京平成大学 薬学部長 亀井 美和子

東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

2. 在宅医療における無菌調剤の現状

東京都リハビリテーション病院 診療部 薬剤科長 越田 晃

3. 輸液の基本知識

株式会社大塚製薬工場 学術部学術担当 関東ブロック 野村 武晴

4. 中心静脈栄養法 (TPN) の基本

帝京平成大学 薬学部 教授 島崎 学

5. 注射剤の混合調製を始めるに際して

帝京平成大学 薬学部 教授 清野 敏一

<実習(1)>

開催日時：令和7年3月2日(日) A班9:30~14:30、B班12:45~17:30

開催場所：帝京平成大学中野キャンパス3階

参加者：計55名(内訳：A班27名、B班28名)

<実習(2)>

開催日時：令和7年3月9日(日) (A)9:30~14:40 (B)12:45~17:30

開催場所：帝京平成大学 中野キャンパス 3階

318 調剤実習室、313 無菌調剤実習室、303・304 教室

参加者：計54名(内訳：A班27名、B班27名)

実習(1)、(2)内容：

1. 手洗い、手袋の脱着、アンプル、バイアル、シリンジの取扱い、凍結乾燥品の取扱い、薬液の採取など
2. 混合調製の実践(準備、手洗い、手袋装着、混合調製、鑑査、清掃)
3. 総括・修了証授与

【東京都 薬薬連携実践推進研修会】

開催日時：令和6年9月28日(土) 16:00~18:35

開催方法：集合研修及びオンライン研修のハイブリッド形式

会場：帝京平成大学 中野キャンパス 2階 225 講義室(中野区中野4-21-2)

配信：Zoomを利用したライブ配信

出席者：会場16名、配信308名

内容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 令和5年度薬事調査について 東京都保健医療局健康安全部 薬務課 課長代理 山田 道子
3. 東京都委託事業「薬薬連携推進事業」アンケート調査結果報告 東京都薬剤師会 薬・薬連携委員会 委員 勝野 純子
4. 薬局薬剤師の立場から トレーシングレポートの事例紹介・より良くするための提案 東京都薬剤師会 理事 會田 一恵
5. 病院薬剤師の立場から より良い薬物治療へと繋がったトレーシングレポート優良事例紹介 東京都薬剤師会 薬・薬連携委員会 委員 平島 徹
6. 退院時薬剤管理サマリーによる病院薬剤師からの情報提供~双方向の情報共有を目指して~ 台東区立台東病院・老人保健施設千束 薬剤室長補佐 鈴木 慶介
7. シンポジウム・質疑応答 座長：東京都薬剤師会 常務理事 松本 雄介
8. 閉会挨拶 東京都病院薬剤師会 副会長 高松 登

【「東京都 薬薬連携実践推進担当者研修会議」～「心不全」をテーマに薬薬連携の体制を強化しよう～】

開催日時：令和6年12月1日（日）13:00～17:00

開催場所：AP 日本橋 B+C ルーム

出席者：63名（内訳：薬局薬剤師38名、病院薬剤師25名）

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 東京都 薬薬連携実践推進担当者研修会議の目的について
東京都保健医療局健康安全部 薬務課 事業連携担当 鎌田 智之
3. 心不全について・薬薬連携に必要な視点
公益財団法人 日産厚生会 玉川病院
医療技術薬剤科 心不全療養指導士 大館 祐佳
4. 趣旨・作業説明 東京都薬剤師会 理事 會田 一恵
5. アイスブレイク
SGD① 心不全患者さんの薬学的管理を行うのに必要な視点や情報を整理する
SGD② 心不全患者さんの適切なフォローアップを行うために必要な体制を整備する
6. 発表＋全体討論 進行：東京都薬剤師会 理事 藤尾 絵美
7. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登

【薬薬連携推進関係者連絡会】

開催日時：令和7年3月27日（木） 18:30～19:42

開催方法：東京都薬剤師会館4階会議室（Zoom ウェビナー併用）

出席者：8名（オブザーバー1名含む）

出席者内訳：東京都医師会1名、東京都病院薬剤師会2名、東京都薬剤師会4名

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登
2. 東京都委託事業「令和3～5年度薬薬連携推進事業」アンケート調査結果について
東京都薬剤師会 常務理事 松本 雄介
3. 東京都委託事業「令和6年度薬薬連携推進事業」について
東京都薬剤師会 常務理事 松本 雄介
4. 質疑応答
5. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登

2-4 医療安全対策

（1）薬機法等改正に伴う体制の整備

薬局における医薬品の業務に係る医療の安全を確保するための基本理念及び安全確保に関する具体的方策等の周知徹底を図るために、薬学講習会において「医療安全管理講座・災害時のリスク回避に配慮した薬剤師の支援活動について」の講習を行った（2-1（5）「薬学講習会等各種講習会の開催②」の項を参照）。

(2) 薬局版ヒヤリハット事例収集分析事業への協力と会員薬局登録及び報告促進等調剤事故防止対策の徹底

調剤報酬における特掲診療料の「地域支援体制加算」の施設基準では、実績要件に、疑義照会により処方変更がなされた結果、患者の健康被害や医師の意図した薬効が得られないことを防止するに至った事例を提供した実績を、薬局機能情報提供制度において「プレアボイド事例の把握・収集に関する取組」として「有」とすることが求められている。このことにより、日本医療機能評価機構が運営するヒヤリ・ハット事例報告登録薬局に登録し事例を報告する参加薬局は年々増加をしている。2024年12月末日現在の都内参加薬局数は、5,317件(参考：2023年12月5,333件・2022年12月5,067件・2021年4,867件)となった。

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業第30・31回報告書及び2023年報を地区薬剤師会へ周知した。

直近の第31回報告(報告期間2024年1月～6月)において、事業参加登録は46,415薬局、調剤に関して8,565事例、疑義照会に関して41,166事例、他計50,000余事例が報告されている(参考：2023年比較 45,290余薬局、調剤8,245事例、疑義照会41,166余事例、他計70,000強の事例)。

ほかに、医療事故収集等事業の「医療安全情報」No.208～No.220と報告書第76～79回の薬剤関連部分や、日本薬剤師会に報告された調剤事故事例(令和5年度版)を情報提供し、薬局における事故未然防止の周知を図った。

(3) 調剤過誤発生後の的確な対応と弁護士紹介

平成27年に医療事故調査制度が施行され、東京都に設立された医療事故調査等支援団体連絡協議会が公表した提言を回覧した。

調剤過誤でトラブルとなり相談のあった件について顧問弁護士への相談の橋渡しを行った。

(4) 東京都医療安全支援センターへの協力

令和6年度中に薬局・薬剤師に対する苦情は3件受付けている。苦情の内容として、薬局での調剤ミスに関する事、ジェネリックの調剤に関する事、処方日数に関する事各1件であった。

(5) 使用済み注射針回収事業の継続と今後のあり方の検討

使用済み注射針回収事業は東京都全域の地区薬剤師会で実施継続されている。事業開始以来22余年が経過し、患者や地域住民、地域行政にも事業の意義が広く浸透している。

令和6年度は、回収専用容器を14万個作成し、地区薬剤師会あるいは地区薬剤師会の事業を支援する行政に対して有償頒布を行うとともに、医薬品空容器を使用済み注射針回収容器として再利用するための専用シール、容器封緘シールを作成・配布した。併せて、新規参加薬局118件に対しても事業参加支援を行った。なお、都内全域で17万3千本強(昨年度より2.0%増加)の容器が回収されたとの報告を地区薬剤師会より受けた。

また、在宅医療廃棄物、特に昨今の針一体型注射器の普及に伴い、その適正処理に関する現状及び課題について、東京都環境局担当者と当会担当役員間で情報共有を図ると共に、東京都環境局へ今後の更なる協力への働きかけを行った。

(6) 薬剤イベントモニタリング(DEM)事業への協力

DEM事業は、日本薬剤師会において2002年度より、薬局が医薬品の適正使用に一

層貢献することを目的として実施されている事業である。

この事業は「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づき、調査対象医薬品（令和6年度は8品目）を使用した患者に発生したイベントの内容を調査するとともに、その発生が新薬（4品目）と比較薬（4品目）の間で異なるか等についても調査が行われた。

DEM事業の実施にあたり、地区薬剤師会を通じて、DEM事業周知のための薬局用説明書等を会員薬局に配布し、データ収集への協力を呼びかけた。また、本会ホームページ（会員用）に日薬が用意した報告画面へのリンクを作成するなど適宜整備を行った。

2-5 都民への広報対策

(1) 健康サポート薬局、かかりつけ薬剤師・薬局の役割等、各種事業の都民への周知

「薬と健康の週間」の時期に合わせ、東京都が作成した「かかりつけ薬剤師・薬局」及び「健康サポート薬局」等の機能を説明したチラシを、店内外に分かりやすく示せるよう会員薬局に配布し、都民への周知を行った。

(2) 「地域連携薬局」、「専門医療機関連携薬局」認定制度の都民への周知

地域における薬局の機能分化と連携体制の強化を目的として、現在「地域連携薬局」及び「専門医療機関連携薬局」の認定制度が運用されている。本会においては、これら制度に対する都民の理解促進を目的として周知を行った。制度の概要や認定薬局の役割をわかりやすく伝えるリーフレットを作成し、会員薬局を通じて配布を行ったほか、「薬と健康の週間」の街頭相談所等で個別相談を活用し、認定薬局の機能および利用方法に関する説明を行った。

(3) 安全・適正な医薬品使用のための情報提供

「令和6年度 東京都重複・多剤服薬者対策に向けた連携構築支援事業」

重複・多剤服薬者の対策は、国民健康保険の保険者が被保険者の健康保持・増進及び医療費適正化を図る上で重要な課題であり、東京都は令和2年度から令和4年度まで都薬剤師会と連携したモデル事業を実施した。モデル事業では、都が指定したモデル自治体において地区薬剤師会と連携した重複・多剤服薬者に対する服薬指導の取組みを推進した。

令和5年度は「重複・多剤服薬者対策に向けた連携構築支援事業」の委託を受けて自治体（区市町村）における薬剤師と連携した重複・多剤服薬者対策を推進する事業を行い、令和6年度も前年に引き続き当該事業を行った。

概要としては本事業の参加を希望した自治体の地域の状況に応じて、重複・多剤服薬者対策（保健指導の勧奨、重複・多剤者対策等の報告、服薬指導に関する助言等）を各地区薬剤師会で行い、支援を通し自治体と薬剤師会の連携を深めることを目的とした事業である。都薬剤師会は自治体と地区薬剤師会のマッチングや助言等の後方支援の立場として本事業を実施した。

本年度の事業に参加した自治体は

【千代田区・台東区・江東区・目黒区・杉並区・北区・葛飾区

八王子市・立川市・武蔵野市・府中市・調布市・小金井市・小平市・日野市

武蔵村山市・多摩市・西東京市・瑞穂町・日の出町・檜原村】

の21自治体であり、そのうち19自治体が各地区の薬剤師会と対面で打合せ会を実施し重複・多剤服薬者対策に関する支援、助言を受けた。

本事業開始以来、本年が最多の自治体参加数となった。来年度は島しょ部の事業参加も確定しており更なる事業規模の拡大が見込まれる。

今後、より多くの地域において連携事業が展開されるよう、引き続き支援を行っていくこと

とした。

(4) 安全・適正な医薬品使用のための「お薬手帳・電子お薬手帳」普及啓発

平成 28 年 4 月より施行された「健康サポート薬局」の基準に、かかりつけ薬局としての基本的機能におくすり手帳の活用が明記された。

各薬局が安全・適正な医薬品使用のための都民への情報提供に積極的に取り組めるよう、おくすり手帳（改訂版）を頒布した（9,100 冊(前年度約 9.7 千冊、一昨年度約 1.3 万冊)）。

3. 医療保険対策

3-1 医療保険対策

(1) 医療保険等関連情報の収集と伝達

調剤報酬の請求等に関する質問については随時回答し、適正な調剤報酬の確保に務めた。なお、下記の質問受付回数は計 1,700 件を上回った。

また、各種の医療保険関連通知、制度改正などはその都度地区薬剤師会に伝達した。

〔月別質問件数〕

月	質問件数	月	質問件数	月	質問件数
4 月	181	8 月	106	12 月	109
5 月	201	9 月	176	1 月	113
6 月	193	10 月	186	2 月	108
7 月	164	11 月	110	3 月	126

【関東信越厚生局管内 10 都県薬剤師会社会保険担当者協議会】

関東信越厚生局管内 10 都県薬剤師会社会保険担当者協議会は、年 1 回 1 都 9 県持ち回り開催しており、令和 6 年度は神奈川県薬剤師会が主催となり開催した。令和 7 年 2 月 11 日開催の会議に、本会から医療保険担当役員 1 名、医療保険委員会委員 2 名が出席し、各都県薬剤師会提出の調剤報酬改定に伴う問題点等について協議を行った。

【令和 6 年度 調剤報酬改定伝達講習会】

例年改定年の 3 月に開催していたが、診療報酬改定 DX の推進に向け医療機関・薬局等やシステム業者の集中的な業務負荷を平準化するため 6 月 1 日施行とされたことから、5 月に開催し周知した。開催方法は、会場（連合会館）と Web 配信（ライブ配信、録画配信）を併用し、会員向けに講習を行った。

開催日・配信日：

- ①【会場開催 午前の部】令和 6 年 5 月 12 日（日）10:30～12:30
- ②【ライブ配信】令和 6 年 5 月 12 日（日）10:30～12:30
- ③【会場開催 午後の部】令和 6 年 5 月 12 日（日）14:00～16:00
- ④【録画配信】令和 6 年 5 月 16 日（木）～

次第：

1. 挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 令和 6 年年度調剤報酬改定について

厚生労働省 保険局医療課 課長補佐 山手 政伸

3. 令和6年度調剤報酬改定の届出について 東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充
受講人数・視聴回数：

- | | |
|---------------|--------|
| ①会場受講者数（午前の部） | 196名 |
| ②ライブ配信申込者数 | 1,334名 |
| ③会場受講者数（午後の部） | 167名 |
| ④録画配信視聴回数 | 1,818回 |

令和元年度より管理薬剤師を対象として、薬剤師が社会に対して果たすべき責務、管理薬剤師に求められる薬局管理のあり方や法令遵守事項等について解説する研修会を東京都との共催で実施している。

令和6年度は都内薬局に従事する薬剤師に対し、今般の薬剤師の役割の変化を踏まえ、それに対する気づきや行動変容を求める内容で東京都との共催により下記のとおりオンライン（ライブ配信）で開催した。

【薬局薬剤師のためのコンプライアンス研修会】

開催日時：令和6年12月7日（土） 19:00～21:00

開催方法：ライブ配信（Zoom ウェビナー）

受講者：1,692名

内 容：

1. 本研修会の趣旨について

東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
東京都保健医療局 健康安全部 薬務課長 中島 真弓

2. カスタマー・ハラスメント対策

ロデム綜合法律事務所 弁護士 三谷 和歌子

3. ACPの実践はスピリチュアルケアに繋がる

— ACPの鍵はコミュニケーションにあり —

東京都訪問看護ステーション協会 会長 篠原 かおる

（2）適正な保険請求業務の指導

（3-1（3）「国民健康保険調剤必携」等保険調剤関連資料の作成・検討」の項を参照）。

（3）「国民健康保険調剤必携」等保険調剤関連資料の作成・検討

調剤報酬改定後（令和6年6月以降）に発出された告示・通知等の内容を掲載した「国民健康保険調剤必携」を発行した。調剤報酬点数とその算定要件、長期収載品の処方等又は調剤に係る選定療養、電子処方箋管理サービス等について掲載し、地区薬剤師会を通じて全会員保険薬局に配布し適正な請求の確保を図った。

また、調剤報酬点数表一覧を作成し、患者が閲覧できる「薬局内の掲示物」として、地区薬剤師会を通じてすべての会員保険薬局に配布を行った。

「保険調剤のてびき」の発行

令和6年度の調剤報酬改定内容及び保険調剤に関する関係法令を解説した「2024年改訂版保険調剤のてびき」を発行（有償頒布）した。また、本書籍発行にあたり“2024年改訂版保険調剤のてびき編集ワーキンググループ”を組織し（全4回開催）、書籍の内容や使い勝手を検討のうえ作成した。本書は日常の業務の中での活用性を重視し2分冊1セットとして4,800セ

ットを発行した。現時点で3,800余セットを有償頒布している。

(4) 社会保険地区指導者等の育成及び協議会の開催

地区の医療保険指導者に対して令和6年度医療保険地区指導者研修会を開催し、調剤報酬の正しい理解と地区会員に対する伝達及び周知を依頼した。また、保険薬局における保険薬剤師の質的向上及び保険調剤の適正化を図ることを目的として、調剤の取扱いや調剤報酬の請求等に関して、地区において先駆的な立場を目指す若手地区会員を対象とした医療保険指導者養成講座を開催した。

【医療保険地区指導者研修会】

開催日時：令和6年9月6日(金) 19:00～20:45

開催方法：Web研修会（Zoomミーティング）

受講者：47名

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 選定療養の取扱い及び電子処方箋について 東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充
3. 施設基準の経過措置項目及びマイナ保険証
利用促進のための医療機関等への補助等について 東京都薬剤師会 理事 町田 奈緒子
4. 質疑応答

【医療保険指導者養成講座】

開催日時：令和7年2月16日(日) 12:00～16:00

開催方法：TKP 神田ビジネスセンター 401 会議室

受講者：28名

内 容：

12:00 ～ 12:05	P	挨拶・主旨説明 東京都薬剤師会 副会長 宮川昌和	5分
12:05 ～ 12:10	P	「アイスブレイク作業説明」 東京都薬剤師会 理事 町田奈緒子	5分
12:10 ～ 12:30	S	SGD (アイスブレイク)	20分
12:30 ～ 13:25	P	基調講演 「調剤報酬改定に見る薬学的管理について考える」 東京都薬剤師会 医療保険委員会 委員長 伊澤慶彦	55分
13:25 ～ 13:30	P	「作業説明①」 東京都薬剤師会 医療保険委員会 副委員長 山田弘志	5分
13:30 ～ 14:15	S	SGD (6G)	45分
14:15 ～ 14:40	P	発表・討論 (発表4分×4G、討議10分)	25分
14:40 ～ 14:45	P	「作業説明②」 東京都薬剤師会 常務理事 根本陽充	5分

14 : 45 ~ 15 : 30	S	SGD (6G)	45分
15 : 30 ~ 15 : 55	P	発表・討論 (発表4分×4G、討議10分)	25分
15 : 55 ~ 16 : 00	P	総括・閉会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 根本陽充	5分

(5) 保険薬局の経営等に関する各種調査

令和6年度は、

- ・『令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査 (令和6年度調査)』
- ・『令和6年度医薬品価格調査』
- ・『医療機関等における経営状況等に関する調査』

等の調査について、無作為に抽出された調査対象の会員薬局等に日本薬剤師会の依頼により、地区薬剤師会に周知依頼及び薬局からの問い合わせ等の対応を行った。

(6) 後発医薬品の使用促進と後発医薬品データベースの充実

後発医薬品の安定供給については、会員から寄せられた苦情などの情報を収集し、厚生労働省医政局経済課にその都度情報提供を行っている。令和6年度は42件の意見及び情報が寄せられ、厚生労働省並びに日本薬剤師会に情報提供を行った。

後発医薬品比較サイトの登録医薬品データの更新及び「薬価基準新規収載品」の追加登録を行い、最新情報の提供に努め、第16回目となる地域医薬品使用実態調査から得られた個々の後発医薬品の調剤回数を本サイトデータに反映した。

(7) 地域医薬品使用実態調査の実施

東京都内において処方箋により交付されている医薬品の使用実態、すなわち交付された医療用医薬品の医薬品名、調剤回数、調剤数量及び備蓄薬局数並びにその医薬品がどのような特別な作業を伴う調剤(例えば、無菌製剤処理、自家製剤又は計量混合など)あるいはどのような薬学的管理(服薬管理指導、かかりつけ薬剤師指導、各種情報提供、在宅患者訪問薬剤管理指導など)を伴って患者に交付されたかなど、地域における医薬品の使用実態と調剤実態を明らかにすることを目的として第16回目を実施した。

さらに、後発医薬品の使用実態を明らかにし、過去のデータと比較することで後発医薬品使用の進捗状況を把握するとともに、都民への後発医薬品に関する正しい知識の普及と安定供給のための基礎資料を得ることを目的とした。

電子媒体で調剤報酬を請求する薬局を対象とし、地区薬剤師会が区市ごとに保険薬局数の1/5に相当する任意に選定した薬局、都内全体では1,200薬局を調査対象とした。

調査対象月及び対象者は、令和6年10月調剤分の被用者保険、国民健康保険及び後期高齢者医療保険の加入者とし、調査対象薬局の電子レセプトデータから“患者”及び“調剤した薬局”並びに“処方箋発行医療機関”にかかわる一切の個人情報を電磁的に削除した医薬品等に関するデータのみを抽出し、解析用データとした(7.(4)「後発医薬品の備蓄に関する情報提供」の項を参照)。

(8) 広域医療機関等、処方箋応需に係る諸問題への対応

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の公費支援の見直し、請求等に関する通知文等を地区職域会長会等で周知を図った。

(9) 対人業務の充実に向けた医療DX化及びサイバーセキュリティへの対応

電子処方箋等の導入・取扱い方法等について、地区薬剤師研修会の都薬アワーでの講演等により周知を図った。

3-2 介護保険制度の適正な運用の指導と高齢者対策

(1) 在宅薬剤管理業務の拡充のための調査・研修会の実施

急速な高齢化に対応すべく構築が進められている地域包括ケアシステムに関し、在宅療養への薬局・薬剤師の参画を推進することを目的に「在宅療養支援促進事業」を実施している。令和6年度はその一環として「在宅療養多職種連携研修会」を日本教育会館にて開催した。本研修会は『医療的ケア児への支援の実際』をテーマに「訪問診療の実際について」・「医療的ケア児の生活支援の実際について～児童発達支援や放課後等デイサービスの役割～」・「在宅訪問業務の実際について」医師、介護福祉士、薬剤師を講師に招き、総括として演者による質疑応答の場も設けた。

【在宅療養多職種連携研修会】

開催日時：令和7年1月18日（土）18:00～20:30

開催場所：日本教育会館 3階 一ツ橋ホール

受講者数：申込者 168名

内 容：

司会：東京都薬剤師会 理事 伊藤 威

1. 開会挨拶

東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

2. 基調講演

「小児の在宅ってなあに？～みんなで支える小児在宅医療～」

さいわいこどもクリニック 前院長 宮田 章子

3. 「医療的ケア児の生活支援の実際

居宅介護・児童発達支・放課後等デイサービスにおいて」

ホープウェル株式会社 代表取締役 相談支援・医療的ケア児コーディネーター

高舘 麻貴

4. 「在宅訪問業務の実際と、これから依頼を受ける薬局薬剤師へ伝えたいこと」

公益社団法人 日本薬剤師会 常務理事 川名 三知代

5. 質疑応答

座長：東京都薬剤師会 常務理事 松本 雄介

東京都薬剤師会 理事 會田 一恵

6. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充

4. 医薬品等薬事情報対策

(1) 会員に対する安全・適正な医薬品使用の啓発のための情報収集・提供

①薬事情報課(医薬品情報室)利用状況

薬事情報課は医薬品情報室として設置されて以来 49年目を迎えた。医薬品情報のみならず医療情報、健康食品情報、アンチ・ドーピング、薬事関連法規等の各種の薬事情報の収集・提

供に努めている。また、インターネット等を利用して会員に対する情報提供を充実させ、利用者へのサービス向上に取り組んでいる。

【会員等に対する情報活動(令和6年4月～令和7年3月)】

(問合せ件数)

令和6年 4月	22件	10月	28件
5月	26件	11月	19件
6月	36件	12月	35件
7月	25件	令和7年 1月	21件
8月	21件	2月	18件
9月	23件	3月	33件
		合 計	307件

(問合せ者別集計)

①薬局	46人	(15.3%)
②病院・診療所	8人	(2.7%)
③卸	0人	(0%)
④管理センター	0人	(0%)
⑤製薬会社	2人	(0.7%)
⑥医療関係者	11人	(3.7%)
⑦その他	233人	(77.7%)
合 計	300人	

(問合せ事項別集計)

	全体		医療従事者・関係者		一般	
	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
①保険・法規関係	31件	(10.1%)	27件	(39.1%)	4件	(1.7%)
②医薬品一般	56件	(18.2%)	4件	(5.8%)	52件	(21.8%)
③副作用・中毒	15件	(4.9%)	1件	(1.4%)	14件	(5.9%)
④薬理・疾病	10件	(3.3%)	0件	(0%)	10件	(4.2%)
⑤薬剤学的事項	4件	(1.3%)	1件	(1.4%)	3件	(1.3%)
⑥製剤識別	0件	(0%)	0件	(0%)	0件	(0%)
⑦ドーピング	165件	(53.7%)	33件	(47.8%)	132件	(55.5%)
⑧その他	26件	(8.5%)	3件	(4.3%)	23件	(9.7%)
合 計	307件		69件		238件	

問合せ者数、問合せ件数ともに前年とほぼ同数であった。

問合せ者別にみると、一般都民からの問合せがもっとも多く、次いで薬局薬剤師、医療関係者と続く傾向は変わらない。

問合せ事項の内訳としては、一般の方からのドーピングに関する問合せが約5割を占めた。

②医薬品情報提供事業

1)DI 速報(FAX 等)の発行

厚生労働省医薬品・医療機器等安全性情報の概要 No. 409～417

9回

2) 広域病院採用医薬品のお知らせの発行

都内広域病院から連絡があった採用医薬品、採用中止医薬品等の情報を地区薬剤師会宛にメールにて周知を行った。

(2) インターネットを利用した各種薬事情報提供の推進

東京都薬剤師会ホームページ「医薬品等情報ページ」では、独自に作成した「新薬情報」、「添付文書改訂のお知らせ」を随時掲載するとともに、「医薬品・医療機器等安全性情報」の最新号にリンクを貼り、会員への周知に努めた。また、冊子「DI レター」「医薬品情報」については、発行後、PDF 形式にて掲載している。

(3) 都民のための「おくすり相談窓口」業務の充実

道府県薬剤師会が作成した Q&A 集等参考書籍、データを収集した。

(4) 都民のための「健康食品に関する安全性情報」提供のための情報収集

東京都及び東京都医師会と協力し、健康食品によると疑われる健康被害情報の収集に努め、東京都へ 31 件の被害情報を報告した。

会員から広く被害事例を収集するため、「健康食品情報共有シート」を年に 2 回、「都薬雑誌」に同封した。また、地区薬剤師会の協力を得て、10 月に開催した「薬と健康の週間」に開設された街頭相談所を利用して、都民に対し情報収集を行った。なお、本事業の周知・協力依頼を目的とした、都民向けチラシ「健康食品・サプリメントの摂取によってこんな悩み抱えていませんか?」、「健康食品・サプリメント情報シール」を作成して、「薬と健康の週間」に開設された街頭相談所で配布した。

また、東京都より発出された健康食品との関連が疑われる健康被害事例の収集への協力依頼文書(前期分)を薬学講習会で受講者に配布したほか、後期分の協力依頼文書、健康食品との関連が疑われる健康被害事例(平成 18 年 7 月～令和 6 年 11 月)をまとめた冊子「健康食品に関する安全性情報共有事業」、チラシ「サプリ・健康食品の摂取で体に違和感がでていませんか?」を地区薬剤師会経由で会員薬局に配布した。

【健康食品による健康被害に関する研修会】

今般、サプリメント摂取による健康被害が複数報道され、社会的関心の高まりを受けて、薬局における相談体制の強化と情報提供の重要性が改めて認識されたことから新たに標記の研修会が東京都の委託事業として企画・実施された。

開催日時：令和 6 年 10 月 5 日(土) 18:00～19:55

開催場所：Zoom を利用したライブ配信

参加者：163 名 (申込者数 239 名)

内 容：

1. 開会・主催者挨拶

東京都健康安全研究センター 企画調整部 食品医薬品情報担当課長 大木 理恵子
東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

2. <講 義>

1) 健康食品による健康被害事例について ～健康被害事例専門委員会の報告内容～

東京都健康安全研究センター 企画調整部 健康危機管理情報課

2) 健康食品の利用上の問題点 ～健康被害発生において薬剤師として注意すること～

元 国立健康・栄養研究所情報センター長／静岡県立大学 客員教授 梅垣 敬三

3. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 小野 稔

(5) 関係諸団体との連携、情報収集

日本薬剤師会と連携し、医薬品やその副作用等に関する情報の収集に努めた。また、東京医薬品工業協会主催の研修会等へ参加し、医薬品情報収集への協力を求めた。

5. 衛生試験所で行う試験検査対策

(1) 随意試験：会員薬局の医薬品における調剤及び販売業務向上に資する医薬品試験及び情報提供

医薬品は、必要に応じて試験検査を実施し、その基準に適合しないもの、異物が混入し、又は付着しているものは販売・授与のみならず輸入や貯蔵・陳列が禁止されている。それを扱う薬局の開設者及び管理者は、必要に応じて医薬品の試験検査を実施することが、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」（薬機法）及びその施行規則で義務付けられている。

これに該当する医薬品が今年度は2検体が会員薬局より依頼され、何れも処方箋医薬品であった。その内訳は、PTP状態で渡された中の1錠が異常品だと患者から主張されているとの相談について、薬局在庫品、患者提出品（当該品及び正常品）の同定をPDA検出器による高速液体クロマトグラフ法（HPLC）で行い、すべてのピークのスペクトルが一致したことを報告した。もう一方は、混合散剤の含量確認依頼についてHPLCを用いて調剤された分包品中の薬剤量を算出し、依頼薬局に報告した。

(2) 計画的試験：試験所契約の薬局が製造・販売する薬局製剤の承認規格試験

薬局製剤として任意に提出された48種類90検体を試験した結果、漢方製剤では処方生薬の含量不足が1検体、内服薬では含量不足2検体、含量不足で黒色の異物を認めた1検体及び黒色の異物を認めた1検体、外用薬では含量不足2検体、含量過多1検体及び芳香を示さない1検体の合計9検体が承認規格基準に外れたものであった。試験及び結果の詳細については、令和6年度医薬品計画的試験結果の集計報告にまとめ報告した。なお、薬機法に不適合であることから、製造販売した薬局には速やかに結果を報告するとともに、その処方・規格の確認及び製造記録の再確認を依頼した。これらの不適合品の販売は中止していただいている。

令和6年度薬局製剤（48種類）の承認適否試験結果

	処方数	検体数	適合	不適合
1) 漢方製剤（切断生薬）	22	31	30	1
2) 生薬製剤（生薬末）	2	4	4	0
3) 化学薬品を主とする内服薬（定量規格有）	9	17	13	4
4) 化学薬品を主とする内服薬（定量規格無）	7	12	12	0
5) 外用薬（定量規格有）	4	13	10	3
6) 外用薬（定量規格無）	4	13	12	1
合計	48	90	81	9

（3）在宅医療での医薬品の品質確保

事業実施に向けた予備試験として日頃の在宅医療において汎用される薬剤のうち、一包化による品質劣化に疑義があると思われる薬剤の提示を本会役員にお願いし、提示された薬剤の成分含量測定可否等の検討を行なった。保管条件は、患者宅に近い状態のA「試験室内でお薬カレンダーに分包品を入れた状態（ロガーで温度・湿度、照度計でlx測定）」及びB「 $30^{\circ}\text{C} \pm 2^{\circ}\text{C} / 65\% \text{RH} \pm 5\% \text{RH}$ 」で1ヵ月間及び3ヵ月間保管したものを、通常条件下で保管されたPTP包装のものと比較した。その結果は、質量、色調及び形状に変化を認めるものもあったが、成分含量を測定した薬剤の含量は、PTP包装のものを100%とすると98%~103%と明確な品質変化（含量が5%以上変化）は認められなかった。

（4）日本薬剤師会が実施する全国統一試験（医薬品試験に係る精度管理試験）への協力・参画

日本薬剤師会が実施する全国統一試験（医薬品試験に係る精度管理試験）を受託し、本試験所の内部精度管理試験としても活用した。今年度はクロロフェニラミンマレイン酸塩錠の高速液体クロマトグラフ法（HPLC）を用いた定量法を行い日本薬剤師会に結果を報告した。

（5）外部精度管理試験への参加

外部精度管理試験として、厚生労働省で実施する「登録試験検査機関間比較による技能試験」に参加し、ベラパミル塩酸塩錠のHPLCを用いた定量法及び紫外可視吸光度測定法を用いた確認試験を行い、結果を厚生労働省（国立医薬品食品衛生研究所薬品部）に報告した。

（6）内部精度管理試験の実施

内部精度管理試験として、HPLCを用いたカフェインの定量を行った。その結果は概ね良好な結果であり、記録簿に記載し保存した。

6. 「図書企画・編纂・出版」事業

（1）会員に対する情報提供メディアとしての『都薬雑誌』の企画・編集

会員にとって身近であり、すぐに活用できる情報誌となることに留意しながら企画・編集を行い、月刊誌「都薬雑誌」を12回発行した。特徴ある企画を以下に挙げる。

近年社会問題となっている薬物乱用について、東京都が改定した「東京都薬物乱用対策推進計画(令和5年度)」の背景や考え方などを3回にわたりシリーズでわかりやすく解説した。また、子どもたちに対する薬育の取り組みについて紹介した「学校薬剤師による小学校でのお薬教室について—移動教室と連動した取り組み—」を掲載した。

また2024年1月1日に発生した石川県能登半島地震の被災地での支援の様子を伝えるシリーズ「能登半島で起こす薬剤師革命」を企画し、3月1日発行の3月号にいち早く掲載するとともに、刻一刻と変化する被災地の様子を都薬から派遣され、実際に支援に携わってくださった薬剤師の先生方にシリーズにて詳細に読者に伝えていただいた。

地域に根ざした薬剤師の活躍の様子を紹介する企画として、診療所に勤務する薬剤師の立場から地域医療の様子を伝えるシリーズ「診療所で起こす薬剤師革命」、地域包括ケアシステムを担う一員として薬局が地域に出ていくための取り組みとしてケアカフェ事業立ち上げと運営の様子を伝える「街かどケアカフェ『くすりと健康の広場』誕生まで」を掲載した。

薬剤師の基礎知識をアップデートするための情報提供を目的に「はじめての中医学教室」「薬局で活用できるくすりの適正使用情報とは」「新薬情報アップデート」「これだけは知っておきたいバイオ医薬品」「がん薬物療法における検査値の活用」などを企画した。

地域医療に着目した企画としては、シリーズ「慢性腎臓病と治療」「高齢者のトレーニング」「点眼薬雑感」「自律神経系と体調不良」「新型コロナウイルス感染症COVID-19の現在—後遺症—」を掲載した。

また、本会が令和6年度に実施した「薬剤師のリアルを聴いてみよう!」の様子を紙面で報告することで、本会次世代ワーキンググループの委員である薬学生の活動を広く周知した。

その他の企画として好評の既シリーズ「藤井もとゆきの国政メモワール」「海外での大学院生活と現地での暮らし」「音楽家と病気」「我が大学が誇る施設」「記者ぼっぼ」「がんになった私のハッピーライフ」など、多岐にわたる話題を取り上げ、本会会員に提供した。

また、都薬会員用ホームページに「都薬雑誌バックナンバー」第46巻(2024年発行)を掲載し、46年間分のバックナンバーを会員が閲覧し活用することを可能とした。10月号には当会公衆衛生委員会が作成した「感染症予防に関するQ&A 追補版」を同封して全会員に配布し、AMR対策、ワクチン、東京都で問題となっている梅毒などの性感染症に関する情報提供・知識のアップデートに寄与した。

(2)『医薬品情報』・『DIレター』の発行

東京都からの委託を受け、令和6年7月から令和7年3月にかけて、『医薬品情報』No.1~5および『DIレター』No.1~4をそれぞれ隔月で発行した『医薬品情報』では主に医薬品の使用上の注意改訂や副作用情報を解説したほか、今年度は、「SGLT2阻害薬の基礎知識」、「メンタルヘルスファーストエイド」、「がん薬物療法に関わるバイオマーカー」、「オーバードーズによる心身の危機への薬剤師の関わり」、「肥満症と新しい治療薬」など、薬剤師の実務に資するテーマを特集として掲載した。これらの記事は、木下 貴之(杏林大学医学部)、浦野 絢子(慶應義塾大学薬学部)、森 裕一(日本赤十字社医療センター)、秋本 義雄(実践薬学研究会)、中辻 萌・廣田 勇士・小川 渉(神戸大学大学院医学研究科)ら、各分野の専門家に執筆を依頼した。また、『DIレター』では、話題の新薬や注意喚起が求められる医薬品に関する適正使用情報を掲載した。加えて、東京都健康安全研究センターが取り組む健康被害情報共有事業に関する内容も盛り込み、情報提供の充実を図った。

(3) 調剤報酬関連の冊子の企画、編纂

(3-1 (3) 「『国民健康保険調剤必携』等保険調剤関連資料の作成・検討」の項を参照)

7. 医薬品・情報管理センター事業への対策

(1) 医薬品・情報管理センターを拠点とする薬事情報提供活動の推進

「薬と健康の週間」用資料、医薬品情報、DI レター、薬事関係資料、偽造処方箋情報及び医療保険情報などを提供し、管理センターの情報中継機能を支援した。

(2) 医薬品・情報管理センター備蓄医薬品検索システムの維持・管理

平成 27 年 7 月にシステムの改修を実施し、新たに添付文書情報の表示機能や後発医薬品比較サイトとの連携等の機能を追加し利用者の利便性の向上を図った。また、医薬品マスター等の更新を適宜行い、システムの安定運用に向けた対応を継続的に実施した。

(3) 薬局間の備蓄医薬品検索システムの維持、管理、今後の在り方の検討

(7. (2) 「医薬品・情報管理センター備蓄医薬品検索システムの維持・管理」の項を参照)

(4) 後発医薬品の備蓄に関する情報提供

令和 6 年 10 月調剤分を対象にした第 16 回地域医薬品使用実態調査で得られた調査結果の一覧表を掲載するとともに、全医薬品の調剤回数を後発医薬品比較サイトのデータに反映させ、最新情報の提供に努めた。

①後発医薬品の調剤回数は全医薬品対比 61.2%、調剤数量は同 55.0%、薬剤料は同 21.0%であった。

②汎用医薬品における後発医薬品変更率は、アロプリノール錠 99.9%、レバミピド錠 74.9%、アムロジピン錠 91.4%、ロキソプロフェン Na 錠 85.5%、ファモチジン錠 89.2%、カルボシステイン錠 85.8%、テプレノンカプセル 68.8%、ランソプラゾール錠・カプセル 93.7%、トラネキサム酸錠・カプセル 85.3%、エチゾラム錠 70.4%、カルボシステインシロップ 83.9%、カルボシステインドライシロップ 86.8%、ツロブテロールテープ 81.6%であった。

(5) 医薬品・情報管理センターを核とした医薬品（一般用含む）分譲業務の検討

管理センターの医薬品販売の利用状況を把握した。

(6) 医薬品・情報管理センター運営に関する支援

平成 25 年度に医薬品・情報管理センター設置運営基準を示し、「医薬品・情報管理センターの設置及び運営に関する覚書」を各センターと取り交わした。現在は、地区薬剤師会が運営する医薬品・情報管理センター運営要綱の提出を受け、当会にて確認及び保管等の支援を行っている。

8. 「薬事衛生・公衆衛生」事業

(1) 都民に対する一般用医薬品等の適正使用の啓発とお薬相談会の実施

(8. (7) 「『薬と健康の週間』事業の実施」の項を参照

(2) 『薬事衛生自治指導教本』の作成と講習実施

本年度も東京都の委託を受けて、「薬事関係法規教本 2024 年版」、自主点検表を作成し、地区薬剤師会を通じて各会員薬局・店舗に配布した。また、薬事衛生自治指導員に対して下記のとおり講習会を実施し、薬事関係法規教本や自主点検表の内容説明のほか、巡回指導時の留意事項や報告書の記載方法等について説明を行った。

【薬事衛生自治指導員全体講習会】

開催日時：令和6年9月7日(土)18:00～20:00

開催方法：集合研修と配信受講のハイブリッド形式

場所：日本教育会館7階 中会議室

配信：Zoom ウェビナー

受講者：315名（内訳：会場65名、配信250名）

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 最近の薬務行政について 東京都保健医療局健康安全部 薬事監視担当課長 渡辺 大介
3. 薬事関係法規教本 2024 年版について 東京都薬剤師会 薬事委員会 委員長 関口 博通
4. 自治指導事業と巡回指導について 東京都薬剤師会 理事 町田 奈緒子
5. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 和田 早也乃

昨年の「2023年追補版」発行以降の改正点についてまとめ、関係法令の周知を行った。自主点検内容については、昨年同様、薬と健康の週間の時期に、実際に巡回して相互チェックを実施し、不備な点があればその場で改善いただくよう解説した。

(3) 薬機法の定着のための研修会等の実施

(8. (2) 「『薬事衛生自治指導教本』の作成と講習実施」の項を参照)

(4) 薬物乱用防止啓発事業への協力

都内の青少年を対象に薬物に対する正しい知識及び乱用の恐ろしさや弊害を啓発するため、東京都の委託を受け、各地区において青少年薬物乱用防止講習会を実施した。62名の薬物専門講師等を含む本会会員により小中学校、高等学校、職業能力開発施設等において165回の講習会が実施され、延べ18,959人が受講した。

今年度実施報告数は、コロナ禍前の予定実施回数には及ばず、昨年度実施報告数とほぼ同数となった。これは、近年のオーバードーズ等を含む薬物乱用防止啓発活動において、学校薬剤師に対する期待が高まっていることから、学校薬剤師による各担当校における薬物乱用防止教室の実施数が増加したものと考えられる。

なお、本会に実施報告があった会員学校薬剤師による担当校における今年度の薬物乱用防止講習会の報告数を合わせると214回の講習会が実施されており、延べ22,706人が受講したこととなる。

[令和6年度 薬物乱用防止講習会 実施報告数]

	担当校以外で本会会員が実施した薬乱防止講習会	担当校で会員学校薬剤師が実施した薬乱防止講習会*	報告数合計
講習会実施回数(回)	165	49	214
受講者人数(人)	18,959	3,747	22,706

*62名の薬物専門講師等を含む本会会員薬剤師のうち16名と、学校薬剤師17名から担当校で実施した薬物乱用防止講習会について報告いただいた。

東京都が実施している「薬物専門講師証明制度」の周知に努め、交付申請に係る事務を行い、交付が円滑に行われるよう協力した。今年度、申請のあった会員のうち証明の要件を満たす29名に薬物専門講師証明書が交付された。これにより、東京都が実施している薬物専門講師証明制度による本会会員の有効期限内証明書交付者数は令和6年10月1日現在、89名となった。

また、東京都の薬物乱用防止対策への協力依頼を受け、「東京都不正大麻・けし撲滅運動啓発用ポスター」「東京都『ダメ。ゼッタイ。』普及運動啓発用ポスター・リーフレット」「麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動啓発用ポスター・パンフレット」「薬物乱用防止啓発用リーフレット『健康に生きる 恐ろしい薬物乱用』」等を各地区及び職域薬剤師会に配布した。

本会公衆衛生委員会作製のフラッパー型啓発資材で小学校高学年を対象とする「薬物乱用ダメ！ゼッタイ！」、並びに中学生及び高校生を対象とした「薬物乱用ダメ！ゼッタイ！大麻編」は、今年度も地区薬剤師会をはじめ、会員薬剤師等に頒布し、薬物乱用防止講習会等で広く活用された。

(5) 禁煙及び受動喫煙対策の周知徹底と啓発

本会では、2011年10月より薬剤師の生涯教育の一環として、禁煙支援薬剤師認定制度をスタートさせ、禁煙指導の意義を理解し、禁煙支援・指導方法の正しい知識を持ち、喫煙者へ禁煙相談、禁煙プログラムを適切に提供できる認定禁煙支援薬剤師を養成し、認定禁煙支援薬剤師等を通して禁煙活動に取り組んでいる（2-1（2）「禁煙支援薬剤師認定制度の推進」の項を参照）。

また喫煙は本人だけでなく、周囲にいる人にとってもさまざまな疾病の遠因となっていることを都民に正しく伝達することで、都民に対する禁煙及び受動喫煙対策に係る普及啓発活動に協力した。

本会公衆衛生委員会作製の、小学校高学年を対象とした受動喫煙に関するフラッパー型啓発資材「受動喫煙にNO!!」は、今年度も地区薬剤師会をはじめ、会員薬剤師等に頒布し、会員学校薬剤師による薬物乱用防止講習会やくすり教育等で広く活用された。

(6) 健康日本21（第三次）に基づいた、健康増進活動への協力と推進

健康増進法に基づき策定された、国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針の具体的な計画である健康日本21（第二次）に基づき、厚生労働省が実施する国民一人ひとりが食生活改善の重要性を認識し、理解を深め、日常生活での実践を促進すること等を目的とした食生活改善普及運動の推進に取り組んでいくよう地区及び職域薬剤師会への周知に努めた。さらに食生活改善普及運動と同時期に実施された健康増進普及月間についても地区及び職域薬剤師会へ周知した。

また、本会公衆衛生委員会で作成した「公衆衛生に関するQ&A～健康サポート編～」では健康日本21（第二次）の中間報告で目標を達成できていない項目について、薬局薬剤師が関わ

ることのできる生活習慣の改善や、重症化予防に貢献できる内容を取りあげ、今年度も地区薬剤師会をはじめ、会員薬剤師等に頒布し、広く活用された。

(7) 『薬と健康の週間』事業の実施

「薬と健康の週間」(10月17日～23日)において、日本薬剤師会、厚生労働省、東京都及び関係機関と連携し、都内47地区で「薬の街頭相談所」を開設した。街頭相談所と薬局等に下記のポスターをはじめ各種資料を配布し、都民へ薬の正しい使い方等の啓発並びに情報発信を行った。

【ポスター、資料等の配布】

「薬と健康の週間」(ポスター)—1 薬局・店舗 1 枚

「薬の無料相談」(ポスター) —1 会場 2 枚

「薬との上手なつきあい方」 —1 会場 100 部(1 薬局・店舗 5 部)

「知っておきたい薬の知識」 —1 会場 200 部(1 薬局・店舗 3 部)

「医療情報ネット(ナビイ)」—1 会場 300 枚(1 薬局・店舗 3 枚)

「感染症予防に関する Q&A ～追補版～」 —1 会場 30 部

「薬の相談記録」(個票) —1 会場 100 枚

「健康食品 情報共有シート」—1 会場 50 枚

「健康食品・サプリメントの摂取によって『こんな悩み抱えていませんか?』」
—1 会場 100 部

もうお持ちですか? 「かかりつけ薬剤師・薬局」 利用していますか? 「健康サポート薬局」
ご存じですか? 「地域連携薬局」—1 会場 200 部(1 薬局・店舗 3 部)

「医薬品医療機器総合機構ポスター」—1 薬局・店舗 1 枚

「医薬品副作用救済制度ポスター」—1 薬局・店舗 1 枚

「医薬品副作用救済制度」 —1 薬局・店舗 10 枚

「患者副作用報告」 —1 薬局・店舗 1 枚

「健康食品クリアファイル」 —1 会場 40 枚

「健康食品・サプリメント情報シール」 —1 会場 200 枚

「スポーツをがんばっている人 ご存じですか?意図しないドーピング」
—1 会場 100 部

「あなたのくすりいくつ飲んでいますか?」(リーフレット) —1 会場 100 枚

「あなたのくすりいくつ飲んでいますか?」(カードサイズ) —1 会場 100 枚

【薬の街頭相談所の開設】

47 地区において街頭相談所等を開設し、薬事に関する無料相談等を実施し、都民の薬に対する関心に応え、薬の適正使用について広く普及啓発を行った。また、介護相談や薬物乱用防止、かかりつけ薬剤師・薬局、健康サポート薬局の啓発活動等も実施した。なお、薬事相談については東京都病院薬剤師会の協力を得て実施した。

☆街頭相談所開設場所(カッコ内は地区薬剤師会名)

千代田区、日本橋、京橋、港区、新宿区、文京区、下谷、浅草、墨田区、江東区、品川区、目黒区、大田区、世田谷区(世田谷・玉川砦)、渋谷区、中野区、杉並区、豊島区、北区、荒川区、板橋区、練馬区、足立区、葛飾区、江戸川区、西多摩、八王子市、日野市(南多摩)、多摩市(南多摩)、稲城市(南多摩)、府中市、調布市、狛江市、国分寺市、立川市(北多摩)、昭島市(北多摩)、国立市(北多摩)、東大和市(北多摩)、武蔵村山市(北多摩)、町田市、武蔵野市、三鷹市、西東京市(西武)、小平市(西武)、東久留

米市(西武)、東村山市(西武)、清瀬市(西武)

(8) 自殺防止対策普及啓発活動への協力

「自殺対策基本法」及び「自殺総合対策大綱」に基づき、「誰も自殺に追い込まれることのない社会」の実現に向けた、厚生労働省からの啓発活動及び支援策等の推進協力依頼を受け、地区薬剤師会を通じて会員薬局に広報用ポスターの掲示依頼及び広報動画の活用依頼(自殺予防週間並びに自殺対策強化月間)をするとともに、会員薬剤師が自殺対策のゲートキーパーとして地域関係機関と連携の上、各種相談支援等に取り組んでいくよう周知した。

また、東京都からの協力依頼を受け、近年の自殺者数の増加対策として、自殺者数及び自殺死亡率の減少を目的とした東京都実施の「自殺対策における専門的人材育成事業(医療系専門職向けゲートキーパーミニ講座)」「東京都自殺未遂者支援研修」の周知に努めた。

(9) スポーツファーマシスト、薬剤師のアンチ・ドーピング対応の推進と、各種スポーツ団体とのアンチ・ドーピング活動の協力推進

東京都の「医薬品の適正使用推進事業」助成のもと、「意図しないドーピング」を防ぐことを目的とした啓発活動を展開した。今年度も「アンチ・ドーピング講習会」を開催し、講習会を通して最新の知識を提供する機会を設けるとともに、「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック 2024年版」を配付した。

また、各地区薬剤師会の代表者と活動状況を共有するため、「アンチ・ドーピング活動 地区薬剤師会指導者講習会」を実施し、地域における取組みの活性化を図った。

公認スポーツファーマシストへの活動支援として、「公認スポーツファーマシストのためのアンチ・ドーピング講習会」を開催し、本年度は全国から109名のスポーツファーマシストの参加を得た。

そのほか、一般市民向け啓発資材としてパンフレットを作成し、「薬と健康の週間」等の機会を通じて配布したほか、本会ホームページ内「うっかりドーピングを防止しよう」のページ内容を最新情報に基づき更新し、広く周知を図った。

新たな取り組みとして、日本パラスポーツ協会とアンチ・ドーピング活動の協力について打合せを開始した。

【令和6年度 アンチ・ドーピング活動地区指導者講習会】

開催日時：令和6年11月9日(土) 18:00~20:25

開催場所：TKP 神田ビジネスセンター401号室

受講者：38名

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 令和6年アンチ・ドーピング活動状況に関するアンケート結果から
(地区薬剤師会の活動紹介)
東京都薬剤師会 アンチ・ドーピング委員会 副委員長 川田 真二郎
3. 板橋区薬剤師会におけるアンチ・ドーピング活動
板橋区薬剤師会 かえで薬局 宮田 博美
4. 墨田区におけるアンチ・ドーピング活動
墨田区薬剤師会 アンチ・ドーピング委員会 委員長 倉重 友和

5. パラカーリングにおけるサポート活動

有限会社スマイレ薬局 日本車いすカーリング協会 医科学委員 岡田 英之

6. 本日のまとめ 東京都薬剤師会 アンチ・ドーピング委員会 委員長 高松 謙悟

7. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 一瀬 信介

【公認スポーツファーマシストのためのアンチ・ドーピング講習会】

開催日時：令和7年2月16日（日） 13:00～16:00

開催場所：二松学舎大学 中洲記念講堂

受講者：109名

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

2. アンチ・ドーピングの最新情報

公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 専務理事 浅川 伸

3. 2025年禁止表と情報提供時の注意点

公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 医療・科学部 部長 鈴木 智弓

4. 佐賀国スポにおけるアンチ・ドーピング活動について

一般社団法人佐賀県薬剤師会 川副 陽子

5. トークセッション「オリンピックを支えるために」

パリ 2024 オリンピック フェンシング銅メダリスト 福島 史帆実

パラ車椅子テニス トレーナー 前田 准谷

東京都薬剤師会 アンチ・ドーピング委員会 副委員長 篠木 真帆

東京都薬剤師会 アンチ・ドーピング委員会 委員 松島 美菜

6. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 一瀬 信介

(10) 感染症及びアレルギー疾患の医療体制対策の推進と協力

東京都が実施する「医療措置協定締結医療機関等向け感染症対策研修」に対し、本会は「自宅療養者への医療提供時における感染防止対策（薬局向け）」をテーマとする研修用動画コンテンツを提供し、薬局における感染対策の実践的知識の啓発を行った。

また、アレルギー疾患対策においては、東京都アレルギー疾患対策検討委員会に当会役員が委員として参画し、行政の施策立案・検討を行った。

9. 組織強化対策

(1) 会費のあり方を含めた会員増加策の検討

会員数が増加傾向に転じない現状において、本会の将来を見据えて適正と思える会費額と、会費の構成のあり方について検討を行った。また、会員増強を促進するために会員薬局にいる令和7年4月1時点で20代である非会員の薬剤師を対象とした「都薬お試し入会キャンペーン」の検討を行った。

(2) 公益法人制度への対応

平成25年4月1日に公益社団法人として登記して以後、新法人法に基づく定款並びに諸規

程の定めに従って会務を遂行している。

定款及び法人法の定めにより、令和7年6月の通常総会終了を以て任期満了となる役員について、役員選考規程及び会長立候補・副会長候補者の選出に関する規則に基づき、役員選挙管理委員会が統括して、次期会長候補者1名、次期副会長候補者4名を第106回臨時総会(令和7年3月29日開催)において選出している。

また、2年ごと7月末日までに実施する旨の定款及び法人法の定めがある代議員・予備代議員について、代議員選挙管理委員会が統括して、次期代議員選挙の実施を令和7年3月1日に公示し、立候補の受け付けを開始した。

(3) 会員管理システムの維持と拡充

会員管理システムの安定的な運用を目的に、本年度も引き続き、各種OA機器の整備・拡充を行った。

(4) 都薬生涯研修認定制度の利便性の向上

昨年度に引き続き、本会生涯研修認定制度の利便性の向上に向け、現在シールとして発行している研修認定単位の電子化について、検討を進めた。単位の電子化に向けては、昨年度発足させた、埼玉県・千葉県・神奈川県・東京都の4都県薬剤師会で構成する「関東・東京ブロック生涯研修認定制度協議会」を開催し、選定した2社から研修認定単位の電子化を含む、学習支援システムの概要についてプレゼンテーションを受け、機能面やランニングコスト等について協議を行い、最適と判断した一社を選定し、令和7年度からの運用開始に向け、仕様の詳細について協議を行った。

(5) インターネット等を活用した本会と地区・職域薬剤師会間の連携強化

新型コロナウイルス感染症対策を含め、会議のあり方について検討を重ね、Web等を用いて地区及び職域薬剤師会等の会議が開催できるよう対応を行った。また、平成25年度に運用を開始した、地区薬剤師会への電子メールやGoogleフォームを用いて会議やアンケート情報収集にも活用している。さらに、平成27年4月1日にリニューアルしたホームページについても、毎月更新を行い、理事会、地区及び職域薬剤師会会長会で報告し、最新の情報発信に努めている。

(6) 職種部会(製薬部会・卸勤務薬剤師部会・行政薬剤師部会)活動への支援

各事業などにおいて、連携を図り支援を行った。

(7) 学校薬剤師活動への支援と日本薬剤師会学校薬剤師東京ブロック連絡会議の実施

学校薬剤師活動の支援を目的とする、東京都内全学校薬剤師を対象とした「学校薬剤師研修会」を下記の通り開催した。今年度の研修会では学校薬剤師業務を日頃行う上での疑問解消を目的に「プール水検査」「空気検査」「照度検査」を中心に、測定にあたっての条件や注意点、異常値を示した時の対応について解説した。加えて、都内全ての学校薬剤師が格差のない統一した活動を実施することを目的に、本会が調査を実施している「学校環境衛生基準における学校薬剤師職務等に関する実態調査」において、令和5年度に実施した「水泳プールの水質及び施設・設備の衛生状態、薬物乱用防止教室の実施状況」等の調査結果について報告した。調査結果は【資料*】のとおりである。

なお、今年度調査では、学校環境衛生基準「教室等の環境に係る学校環境衛生基準」に規定されている各検査項目やプール水検査、給食室検査の検査実施状況及び、学校保健計画の立案にかかわっているか、理科準備室や保健室の薬品の保管・管理チェックの実施状況、並びに災

害に対する学校薬剤師としての意識調査について、各地区薬剤師会に調査を依頼した。

日本薬剤師会学校薬剤師部会事業等の周知とブロック内の情報共有及び意見交換を目的とした「学校薬剤師ブロック連絡会議」の開催・運営について、日本薬剤師会からの協力依頼を受け、「日本薬剤師会 学校薬剤師東京ブロック連絡会議」を下記のとおり開催し、日本薬剤師会学校薬剤師部会と各地区薬剤師会の学校薬剤師担当者との情報共有及び東京ブロックにおける学校薬剤師活動等に関する協議を行った。

【学校薬剤師研修会】

開催日時：令和6年12月15日(日) 9:00～12:00

開催方法：TKP 神田ビジネスセンター 4階 ホール401

受講者：59名

内容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 学校環境衛生の各種検査における検査項目とその条件、注意点
横浜薬科大学 薬学部 臨床薬学科／レギュラトリーサイエンス研究室 教授 小出 彰宏
3. 「令和5年度 学校環境衛生基準における学校薬剤師職務等に関する実態調査」水泳プールの水質及び施設・設備の衛生状態、薬物乱用防止教室の実施状況、学校薬剤師支援活動に関する実態調査に関わる検査結果報告
東京都薬剤師会 学校保健委員会 委員 宮田 博美
4. 質疑応答
5. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 小野 稔

【学校薬剤師東京ブロック連絡会議】

開催日時：令和7年1月30日(日) 19:00～20:05

開催場所：オンラインによるライブ配信

出席者：各地区薬剤師会 学校薬剤師担当役員・学校薬剤師活動に関して指導的立場にある
本会会員学校薬剤師 57名

内容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 日本薬剤師会代表挨拶 日本薬剤師会 副会長 荻野 構一
3. 学校薬剤師部会活動の現状報告と課題等について
日本薬剤師会 学校薬剤師部会長 富永 孝治
4. 東京ブロックにおける学校薬剤師活動等に関する協議
5. 閉会の挨拶 東京都薬剤師会 副会長 小野 稔

(8) 講習会・研修会実施等における担当部署間の連携強化

令和6年度は、活動テーマを「薬局DXの推進とかかりつけ薬剤師の多職種連携で地域のハーモニーを奏でよう!」とした。このテーマに沿って、実施に関わる各部署の役割を明確にし、企画立案、会場・講師手配、参加者募集等を行い、講習会・研修会を実施した。各部署の担当者及び役員が定期的に、講習会や研修会の進行状況や課題、改善点などを共有する等連携強化を図った。

また、本会では、定款第43条の定めにより事業の推進を目的として委員会を設置し、会員、学術、薬局業務、薬・薬連携、薬事、公衆衛生、学校保健、医療保険、編集、実務実習、生涯

学習、災害対策、アンチ・ドーピング[®]の各常置委員会（定款施行細則第13条）並びに学術倫理特別委員会（定款施行細則第14条）等の委員を会員に委嘱している。令和6年度は令和6年11月30日に、所属する委員会活動に加え、本会の他の委員会とのつながりを深め、活動情報を共有することを目的として常置委員会委員及び特別委員会委員が一堂に会し情報交換を図った。

10. 災害時における医療救護対策

（1）災害時等の医療支援体制への協力

本会は、東京都における大規模災害発生時の医療機能の確保に向けた取り組みとして、引き続き「地域災害医療連携会議」への協力を行った。この会議は、都内13の二次保健医療圏を単位に設置されており、島しょ保健医療圏を除く各地区薬剤師会と連携しながら、本会役員が該当地区に出席し、災害時における医薬品供給体制や薬剤師の役割について、関係機関と情報共有・意見交換を行った。

また、令和6年4月より、東京都の「災害薬事コーディネーター」が新たに任命され、本会から2名選出された。これを受けて、東京都が主催する「令和6年度大規模地震時医療活動訓練」に参加し、災害時における医療体制全体の中で、薬剤師が果たすべき役割の確認と、東京都保健医療福祉調整本部におけるDMAT及び他職種との連携体制の構築に取り組んだ。

さらに、同年1月に発生した能登半島地震に際しては、石川県薬剤師会、日本薬剤師会等と連携し、本会としても情報収集や支援体制の調整に協力。被災地における薬剤師の支援活動に向けて、地区薬剤師会への情報提供や、支援薬剤師の派遣の調整など、後方支援体制の一端を担った。これらの支援で浮き彫りになった課題等を反映し、令和6年3月「災害時薬事活動ガイドライン（第2版）」を作成した。今後も、大規模災害時における薬剤師の迅速かつ的確な支援体制構築を目指し、行政および関係団体とのさらなる連携強化をはかる。

（2）災害時医療救護に係る「災害時薬事活動リーダー」（災害薬事コーディネーター）の養成

東京都地域防災計画、災害時における薬剤師の役割、病院と薬局・薬剤師と医薬品卸売販売業者等との多職種の連携、災害医療の特殊性等を理解し、区市町村災害薬事コーディネーターとして地区での災害医療に貢献できるリーダーの知識を習得することを目的とした「災害時薬事活動リーダー研修」を2回実施した。当該研修では東京都病院薬剤師会、東京医薬品卸業協会にも参加を要請し、また地区ごとにグループを作成し、より地区の実情を見据えた図上訓練を行った。

【第1回 災害時薬事活動リーダー研修】

開催日時：令和6年10月20日（日） 9:00～17:00

開催場所：TKP ガーデンシティ御茶ノ水

参加者：33名

参加地区：千代田区、中央区、港区、新宿区、中野区、杉並区、文京区、台東区

内 容：

- 挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
- 令和6年度大規模地震時医療活動訓練について 東京都保健医療局医療政策部災害医療課 上村 淳司
- 東京都における災害対策～災害時における医薬品等の供給体制～

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| | 東京都保健医療局健康安全部薬務課 鎌田 智之 |
| 4. 災害時における薬剤師会の活動について | 東京都薬剤師会 常務理事 犬伏 洋夫 |
| 5. 災害派遣における自衛隊の活動について | |
| | 防衛省陸上自衛隊東部方面総監部医務官室 |
| 6. 図上訓練 (DIG・災害想定 of 俯瞰) | 日本赤十字社医療センター 丸山 嘉一 |
| 7. 図上訓練 (薬事関係者の連携) | 東京都医師会 大桃 丈知 |
| 8. 総括 | 日本赤十字社医療センター 丸山 嘉一 |
| 9. 修了証授与・閉会 | 東京都薬剤師会 常務理事 貞松 直喜 |

【第2回 災害時薬事活動リーダー研修】

開催日時：令和6年12月10日(日) 9:00～17:00

開催場所：AP 日本橋

参加者：36名

参加地区：足立区、葛飾区、墨田区、江東区、江戸川区

内 容：

- | | |
|----------------------------------|--------------------------|
| 1. 挨拶 | 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫 |
| 2. 東京都における災害対策～災害時における医薬品等の供給体制～ | |
| | 東京都保健医療局健康安全部薬務課 鎌田 智之 |
| 3. 令和6年度大規模地震時医療活動訓練について | |
| | 東京都保健医療局医療政策部災害医療課 上村 淳司 |
| 4. 薬剤師会の救護活動について | 東京都薬剤師会 常務理事 犬伏 洋夫 |
| 5. 自衛隊の医療救護活動について | |
| | 防衛省陸上自衛隊東部方面総監部医務官室 |
| 6. 図上訓練 (DIG・災害想定 of 俯瞰) | 日本赤十字社医療センター 丸山 嘉一 |
| 7. 図上訓練 (薬事関係者の連携) | 東京都医師会 大桃 丈知 |
| 8. 総括 | 日本赤十字社医療センター 丸山 嘉一 |
| 9. 修了証授与・閉会 | 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫 |

(3) 東京都地域防災計画(震災編)に係る「東京都災害薬事コーディネーター」他関係組織との連携推進

東京都総務局総合防災部では、震災による新たな被害想定に基づき、都民の命とくらしを守るため、地域防災計画(震災編)を策定している。これに関連して、災害時における医薬品の供給体制や薬剤師の役割に関する実務的な連携体制の整備が求められている。本会では、東京都災害薬事コーディネーターを中心に、災害発生時における薬剤師の役割と体制構築に関して、関係機関との連携を見据えた情報収集と連携体制の検討を継続した。

また、東京都が主催する「令和6年度 大規模地震時医療活動訓練」において、本会の災害薬事コーディネーターが参加し、東京都保健医療福祉調整本部、DMAT、他職種との連携のもと、災害時における医薬品供給・管理体制の確認や薬剤師の果たすべき役割について実地訓練を通じて検討を行った。

今後も、本会は東京都との緊密な連携のもと、薬剤師が災害医療に的確に対応できる体制の構築に向けて、引き続き支援体制の強化と実効性のある取組みを進めていく。

(4) 防災訓練への参加協力

東京都では、区南部を震源域とする非常に強い地震が発生し、最大震度7、区部の薬6割の

範囲で震度6強以上を記録した想定で、令和6年9月1日(日)に「令和6年度東京都・板橋区合同総合防災訓練」を実施する予定であったが、台風10号発生のため中止となった。

(5) 大災害時における薬局BCP(事業継続計画)の活用支援

当会ホームページ上に薬局BCP(業務継続計画)の作成用ひな型を掲載し、災害発生時の薬剤師の活動、限られた資源で営業の継続、早期に再開する基盤となるよう支援を行った。

(6) 災害時等における関東県及び東京都地区薬剤師会との連携体制の整備

災害時に会員の安否確認を迅速に行うため、平成28年度に契約した総合警備保障株式会社提供の「ALSOK安否確認サービス」を利用した電子メールでの連絡システムの活用を推進した。令和6年度は、地区薬剤師会に対し、システムの理解促進に努め、使用方法及び加入の推進及び活用方法の説明を行い、予行演習を兼ねた訓練配信を行い、災害時の備えとした。

(7) 東京都国民保護計画への体制整備

役員・職員連絡網についてインターネット網での電子メールを利用した、総合警備保障株式会社提供の「安否確認サービス」の導入、発信・連絡試験を実施した。

(8) 改正感染症法(令和6年4月施行)の推進

令和6年4月に施行された改正感染症法に基づき、本会では、感染症発生時における薬剤師の役割と薬局の機能について、東京都および関係団体との連携のもと、その体制整備と周知に努めた。

また、「東京都感染症対策連絡協議会」・「東京都感染症対策連携協議会予防計画協議部会」および「東京都新型インフルエンザ等対策有識者会議」に本会の役員が参画し、平時からの連携体制の構築の重要性や、薬局が地域における医療アクセスの拠点として機能できるよう、意見具申を行った。さらに、感染拡大時における医薬品の安定供給体制の確保を目的として、地域薬局における衛生資材や医薬品の在庫管理体制、調達ルートの整備に関する情報提供や研修(t-MYLSに動画コンテンツを掲載・東京都の医療措置協定締結医療機関等向け感染症対策研修にコンテンツの提供)を行った。加えて、感染症発生時における円滑な医療提供体制の構築を目的として、薬局等との「医療措置協定」の締結促進に向けた情報提供を行い、各地区薬剤師会に対して協定の意義や必要性を周知し、締結に向けた働きかけを行った(令和7年4月1日現在東京都全体で5,682施設が締結)。今後も改正感染症法の趣旨に基づき、薬剤師が感染症対策の一翼を担う体制の構築とその実効性確保に向け、引き続き積極的に取り組んでいく。

1.1. 会員奉仕事業

(1) 学術出版物等の斡旋

令和6年度中に約4,000冊、会員価格にして約1,900万円余の書籍の斡旋を行った。主な書籍斡旋数は「今日の治療薬2025」、「保険薬事典プラス 令和7年4月版」、「薬価基準点数早見表 令和7年4月版」、「治療薬マニュアル2025」などであった。また、各種研修会に出版社に出版を求め、会員の学術出版物入手の便宜を図った。

(2) 制度融資の紹介・斡旋

日本薬剤師会が提携する各銀行よりの制度融資「薬局ローン」について、問い合わせに應對し資料を送付するなどの紹介を行った。

(3) がん保険の斡旋

がん保険(アフラック、令和7年3月末日現在の加入32件)の団体契約を継続した。

(4) 薬剤師賠償責任保険制度等の周知と新たな加入促進

日本薬剤師会の薬剤師賠償責任保険並びにサイバー保険、アンチ・ドーピング活動保険への加入について、地区及び職域薬剤師会会長会及び本会ホームページへの掲載により会員に周知を図り加入を推奨した。

(5) 薬剤師資格証の取得に関する業務の推進

日薬認証局により薬剤師資格証(以下 HPKI カード)の発行申請がされ、日本薬剤師会と東京都薬剤師会は連携して、発行された HPKI カードを申請者本人に交付する際の一連の業務協力を継続した。

12. その他

(1) 日本薬剤師会の諸施策に対する対応及び提言

医療 DX 推進により引き起こされるリスクへの対応について、濫用の恐れのある医薬品の販売とリスク区分の整理について、後発医薬品のある先発医薬品(長期収載品)の選定療養について、薬剤師の疑義照会について、カスタマーハラスメントに対する処方箋応需義務について、サイバー攻撃を想定した事業継続計画(BCP)の雛形について、薬局薬剤師の休日夜間対応と輪番制参加状況のリスト化について、自由診療における自費処方箋の応需について、医療 DX 推進に伴い危惧される地域薬局への影響について、「健康増進支援薬局」の在り方について、『「臨床における実務実習に関するガイドライン」に対する対応について』で示された「薬学実践実習」の方向性について、日本薬剤師会が新たに設置した委員会及び部会の活動について等日本薬剤師会の総会において意見具申するとともに、日本薬剤師会が実施する事業に協力した。

(2) 日本薬剤師会関東ブロック薬剤師会との連携

関東ブロック(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、山梨県の各薬剤師会)の連携を強化するため、以下の関東ブロック会議に出席し日本薬剤師会総会開催にあたり日本薬剤師会の事業について、意見交換を行う等、連携の強化を図った。

第1回：令和6年5月26日(主催：群馬県薬剤師会)

第2回：令和7年2月 2日(主催：栃木県薬剤師会)

(3) (一社)東京都病院薬剤師会との連携の更なる強化

本会が事務局を担当した「認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(2回開催)」における東京都病院薬剤師会会員 修了者計24名、及び「認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ(1回開催)」における東京都病院薬剤師会会員 修了者計23名の研修など、相互協力を行った(2-1.(6)「認定実務実習指導薬剤師の養成・更新及び次期改訂内容を踏まえた薬学教育カリキュラムに基づいた実務実習の充実」の項参照)。

地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業「無菌調製技能習得研修会」においては、実習サポートのため、東京都病院薬剤師会から出講した病院薬剤師が実習講師として

受講者の指導を行った。また、令和3年度から開始された「薬薬連携推進事業」では、令和3年度から令和5年度事業の結果をふまえ、今年度の事業が展開された。事業の評価・検討を行う「薬薬連携推進関係者連絡会」開催にあたっては、東京都病院薬剤師会から推薦された委員2名が参加し、本会及び東京都医師会の委員とともに今後の事業展開に向けて意見交換を行った（2-3（4）「地域包括ケアシステムへの参画に向けた在宅医療・介護提供体制の整備」の項を参照）。

なお、令和3年度より、在宅における「がん領域の患者安全管理」を目的とし、東京都がん診療連携協議会研修部会薬剤師小委員会、東京都病院薬剤師会、東京都薬剤師会による3団体合同ワーキンググループに協力している。

また、昨今の医療機関並びに薬局を取り巻く状況が慌ただしく変化する中、病院薬剤師や薬局薬剤師に関する昨今の課題や情報の共有を目的として、令和5年11月30日（木）に東京都病院薬剤師会員役員と本会役員による懇談の場を設け意見交換を行った。

昨今の医療機関並びに薬局を取り巻く状況は、医療DX、医薬品の需要供給問題、長期収載品選定療養等と慌ただしく変化している。病院薬剤師や薬局薬剤師に関する課題や情報も多様化していることから、（一社）東京都病院薬剤師会と、双方の情報の共有や事業協力を目的とした事業連携に関する覚書を令和6年11月28日に取り交わし、協定締結を実現した。

（4）（一財）東京都学校保健会・（一社）東京都学校薬剤師会との連携
学校薬剤師活動に対し情報交換を行い、各種事業に対する相互協力を行った。

（5）東京都並びに関連官公庁への協力と意見具申

東京都保険医療局をはじめ関係官庁に対しては、薬事制度・公費負担医療制度等に関連して連絡を密にし、各種事業に対しては可能な限りの支援・協力を行った。

（6）（公社）東京都医師会・（公社）東京都歯科医師会との連携

東京都医師会・東京都歯科医師会とは、意見・情報交換を行い、各種事業に対する相互協力を図った。

（7）（公財）日本薬剤師研修センター事業への対応

東京都薬剤師研修協議会として、（公財）日本薬剤師研修センター（以下、研修センター）が開発した薬剤師研修・認定電子システム（PECS）に関する様々な問い合わせに対応し、また、研修センターの研修認定薬剤師制度の変更点等を広く会員に周知するなど、同センターが推進する薬剤師生涯教育事業に協力した。

その他、研修センターの求めに応じ、同センターが主催する「薬剤師生涯学習達成度確認試験」に東京会場の試験監督として役員2名を派遣した。

（8）（一社）薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構との連携

（一社）薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構（以下、関東地区調整機構）が推進する安定した実務実習受入れ体制の維持並びに現行の薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づいた充実した実務実習の実施に向けて、関東地区調整機構が運営する各種事業（認定実務実習指導薬剤師養成事業並びに実務実習施設割振調整事業等）に対する支援・協力を行った（2-1（6）「認定実務実習指導薬剤師の養成・更新及び次期改訂内容を踏まえた薬学教育カリキュラムに基づいた実務実習の充実」の項及び2-2（4）「実務実習受入れ態勢の整備」

の項を参照)。

(9) 都内薬科大学・大学薬学部との連携

薬学教育に関する各種事業に対し意見・情報交換を行った。薬学教育6年制課程における充実した長期実務実習の適切な実施への支援・協力を要請するとともに、本会が開催する講習会等への支援・協力など、相互協力を行った。

また、「地域薬局への薬学生就職対応事業」についても相互協力を行った(12.(13)「地域薬局への薬学生就職対応事業の実施」の項を参照)。

(10) 各関連団体・友好団体との交流・連携及びその強化

日本薬剤師会をはじめ、(公社)東京都医師会、(公社)東京都歯科医師会、(公社)東京都看護協会、東京都薬剤師国民健康保険組合、(一社)東京医薬品卸業協会、(公社)東京医薬品工業協会、(公社)東京都医薬品登録販売者協会、(公社)東京薬事協会、(公社)東京生薬協会等の関連諸団体と連携を保ちながら協調を図った。

また、昭和52年に臺北市薬師公會と姉妹会協定を締結し、毎年相互に訪問し、学術交流会等を通じて親善をはかり、薬剤師の技能の理解を深めている。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で令和2年より一時中断していたが、令和4年に来日した臺北市薬師公會と姉妹会締結更新の調印式を執り行い、令和5年には臺北を訪問し現地の薬局や医薬品メーカー視察を行った。令和6年度は、来日した臺北市薬師公會と「台湾における遠隔医療と電子処方箋の現状」、「在宅医療における薬剤師の役割」、「後発医薬品使用促進の推移について」の学術発表及び意見交換を行い交流を図った。

(11) 都薬会館に関する検討

都薬会館は築50年を超え、建物老朽化対策を検討する目的として三菱UFJ不動産販売と三井住友信託銀行の不動産部門担当者を招き、7回の勉強会を開催した。総務・会計の担当役員が出席し、老朽化対策検討為の情報共有を行った。

(12) 会員サービスに対応した事務局機能の充実と質的向上

【会員向け年会費無料クレジットカードの斡旋】

都薬会員特典として年会費が無料となるVISAゴールドカードの発行を三井住友カード社と提携し、平成20年11月から会員に対して斡旋している。令和7年3月末日現在228名の会員に対して302枚が発行されている。

(13) 地域薬局への薬学生就職対応事業の実施

平成30年度より実施している本事業は、令和5年度より「次世代薬剤師育成ワーキンググループ」を設置し、以下の取組を行った。都内薬科大学・薬学部の就職説明会等に参加し、本会会員が所属する薬局への就職案内を積極的に展開した。令和6年度は帝京大学、昭和大学及び昭和薬科大学より学内企業セミナーへの参画の要請を受け、3大学合計62名の学生に、東京都薬剤師会として、地域薬局の取り組みや、在宅療養の実情、就職先として選択する際の魅力を学生に伝え、参加した学生からの多くの質問や相談に応じた。

(14) 共済制度の運営

日本薬剤師会共済部への加入手続きを含む各種手続きについて事務を代行した。

(令和7年度部員 25名)

(15) 警視庁との連携

近年、若年層に広がる一般用医薬品等の医薬品の過剰摂取（オーバードーズ：OD）が大きな社会問題となっていることに対し、警視庁、(公社)東京都薬剤師会、(公社)日本薬剤師会、(一社)くすりの適正使用協議会が連携して子どもたちへの薬物乱用防止活動を効果的に推進することを目的に児童・生徒の薬物乱用防止に関する覚書を締結した。覚書に基づき警視庁と連携し「～正しい知識で自分を守る～TOKYO 薬物乱用防止教室」を1回実施した。警視庁からの依頼に基づき、少年警察ボランティア勉強会への講師派遣を行った。

【令和6年度事業報告 資料】